

先輩職員からのメッセージ

Design the *Future*

日本の未来を一緒に描いてみませんか。



総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

Contents

座談会 少し先輩職員からのメッセージ

総務省が私たちの『舞台』^{メイン・ステージ} 4

放送・情報通信・郵政行政

「日本のICTの国際展開」	
情報通信国際戦略局 国際協力課 国際支援展開室 情報通信支援係長 吉田 邦彦	8
地デジチャンネルのお引っ越し	
情報流通行政局 放送技術課 郷藤 新之助	9
人とのつながりが広がる職場	
情報流通行政局 情報流通振興課 野中 詠子	10
インターネット利用環境整備の現場から	
総合通信基盤局 電気通信事業部 データ通信課 事業振興係長 色部 俊昭	11
目に見えない電波を守るために	
総合通信基盤局 電波部基幹通信 課調整係長 浅川 佐和子	12
先輩の一日 国際会議の一日	情報流通行政局 郵政行政部 郵便課 国際企画室 砂川 友美 13

行政制度の管理運営

一歩踏み出した先で、何を掴むか	
人事・恩給局労働係 併任 国際係 衛藤 美和	14
より良い行政を目指して!	
行政管理局管理官 (外務・防衛・農水等担当) 吉田 光	15
しっかりこなす+考える仕事です	
統計局 統計調査部 国勢統計課 労働力人口統計室審査発表第一係長 高岡 信行	16
いろいろな「物差し」で社会を「見える化」しています	
統計局 統計調査部 消費統計課 物価統計室 物価解析第一係長 大澤 朗子	17
「国際統計」で世界を知ろう	
政策統括官 (統計基準担当) 付 国際統計管理官付 統計専門職 田中 留美	18
先輩の一日 オンオフ共に充実した一日を	年金記録確認中央第三者委員会事務局 調査員 松村 麻美 19

地方自治行政

総務省で働く魅力とは	
自治行政局 行政課 行政第二係長 堀 文彦	20
「地上の星」さがし	
自治行政局 地域自立応援課 人材力活性化・連携交流室 連携交流係長 併任 人材力活性化係長 高橋 大樹	21
日本の未来を創る	
自治財政局 調整課 社会保障制度係長 織田 知裕	22
日本全国知り尽くそう	
自治税務局 市町村税課 諸税係長 併任 大都市税制係長 岡本 理恵	23

災害対応最前線!

消防庁 国民保護・防災部 防災課 応急対策室 応急対策係長 谷神 善洋 24

先輩の一日 現場感覚 ～過疎地域の取組に触れて～

自治行政局 地域自立応援課 過疎対策室 亀澤 朋加 25

総務省を志望するみなさまへ

先輩職員インタビュー 26

地方支分部局

国民の皆様と行政との架け橋

近畿管区行政評価局 総務部長 羽室 雅文 28

総務省でげいっちゃが。一緒に働かんね?

宮崎行政評価事務所 評価監視調査官 小林 宏一郎 29

地上デジタル放送の普及により安心・安全、豊かな生活に貢献

関東総合通信局 放送部 放送課長 茅野 民夫 30

「総合通信局」で働きませんか

東海総合通信局 無線通信部 陸上課 弘津 慶子 31

地方自治体・海外・出向・留学

活躍の場は国にも地方にもあり!

彦根市 企画振興部長 小川 徳久 32

復興の最前線!!

宮城県 総務部 市町村課 中津留 裕之 33

地方の「熱い想い」を胸に

大分県 総務部 市町村振興課 手塚 聡 34

多彩なステージが待っていますよ

在エディンバラ日本国総領事館 領事 遠藤 崇 35

ここにも総務省 ―ニューヨーク事務所より

在ニューヨーク日本国総領事館 領事 谷内 正登 36

イメージはいつでも雨のち晴れ

財務省 主計局司計課 岩崎 太郎 37

毎日が新鮮な業務ばかりですよ

独立行政法人統計センター製表部 統計作成支援課 企画担当係長 並木 剛 38

社会人学生やってます

人事院行政官国内研究員（京都大学公共政策大学院） 林田 雄亮 39

Q & A 40

総務省の組織 42

採用情報 43

総務省が私たちの『舞台』

メイン・ステージ



行政評価、統計、地方自治、消防、情報通信、放送…さまざまな分野を所掌する総務省、その現場で活躍する若手職員の“今”をご紹介します。

座長：本日はお集まりいただきありがとうございます。今回で3回目となるこの企画ですが、お読みになった受験生が総務省を身近に感じることができるといい企画にしたいと思いますので、みなさんのお考えを率直にお話いただければ幸いです。まずは順番に現在どんなお仕事をされているかお話し下さい。

石川：私は、現在、皆さんのご自宅まで引かれている電話回線や光回線を用いてビジネスをする事業者間の公正な競争を促進する仕事に携わっています。具体的には、回線や設備の使用料金が適正な価格となるよう、これらの回線を所有している事業者に関する様々なデータを分析したりしています。事業者間における競争が進むことで、皆さんがインターネットに接続する際にお支払い頂く月額使用料などにも密接にかかわってくることになります。

野口：私は消防関係の地方財政措置や地方交付税のとりまとめを担当しており、小規模な自治体であっても消防が運営できるよう財政面での支援をしています。昨年は東日本大震災の後にも大きな余震が頻発しましたので、危機管理センターに非常参集するなど採用1年目から責任ある仕事に緊張感をもってあたって来ました。

染谷：私が所属する行政相談業務室では一般の方から行政に関するご意見ご要望を伺って、それを反映させる仕事を行っています。国の行政機関でありながら国民の皆さんと直接触れ合う機会のある職場です。各地方事務所での対応が困難な事案については我々が取りまとめ、有識者会議に諮ったうえで「あっせん」という形で関係府省に改善の働きかけを行っています。

新崎：私が携わっている仕事は、固定資産税のうち償却資産といって、企業が所有する機械設備や電車、飛行機などの評価決定を行っています。固定資産税は市町村税なので、本来であれば各市町村で評価決定を行うのですが、規模が大きい設備などは市町村が評価することが難しいため、私たちが実際に所有者からお話を伺ったりしながら評価を手助けしています。

尾形：私の主な業務は電話番号を事業者に割り当てることです。たとえば、固定電話の番号がある地域で足りなくなった際は増やす措置を行ったり、市町村合併の結果、同一市町村でありながら市外局番が異なっている場合などに、市町村からの要望により番号を統一したりしています。最近ですと、携帯電話の番号が足りなくなったため、今までPHSに使用してきた番号「070」を携帯電話にも割り当てられるよう措置しました。

白土：私は平成25年に予定されている住宅・土地統計調査の企画・運営に携わっています。実際に皆さんにお届けする調査票に記載する調査事項を決めたり、どうすれば取りまとめを行う市町村が円滑に事務を進めることができるかなどを検討したりしています。今年は試験調査を行うのでその準備を進めています。

座長：ありがとうございます。ところで、皆さんはどうして数ある省庁の中で、最終的に「総務省に入ろう！」思われたのでしょうか。総務省に決めた理由をお話しいただけないでしょうか。

染谷：私は、一言で言ってしまうと「フィーリングが合ったから」です。採用説明会や面接で出会った職員の皆さん

尾形 知子（平成22年度採用）

Satoko Ogata



総合通信基盤局電気通信事業部
電気通信技術システム課番号企画室

石川 秀樹（平成22年度採用）

Hideki Ishikawa



総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課

んはいい人たちばかりで、業務説明や質疑応答に非常に丁寧に対応してくれました。それによって、業務の詳細についてよく理解できたのはもちろん、こういう人と一緒に働けたらいいだろうなあ、とイメージできたことが大きな材料になりました。

座長：実際に働いてみて、そのフィーリングは間違っていないませんでしたか。

染谷：毎日楽しく働いているので、間違っていないかと思えます。説明会等で職員の方の生の声をたくさん聞くことができたので、自分に合う職場を見つけることができたのだと思います。

新崎：私は地方公務員になるか国家公務員になるかで迷っていたのですが、総務省では地方自治を所管している部局があって、地方の立場にも立って仕事をする事ができるということを官庁訪問を通じて知り、最終的に総務省に決めました。国の立場だけではなく、県庁や市役所等への人事交流の機会もあると聞いているので、地方の立場からも仕事をできる点が大きな決め手となりました。

座長：総務省では国と地方、両方の立場を経験できることですが、両方で大きく異なる点はどのようなところでしょうか。

新崎：特に国の仕事は大きく広範な影響力を持っている点だと思います。入省して間もない私も責任のある仕事を任されることがあるので非常にやりがいを感じています。

野口：私の出身地は人口流出が激しい地域で、問題意識を持ち地方自治に興味がありました。地方自治体も併願していましたが、このような問題は私の出身地に限った問題ではないので、日本全国の同じような問題を抱える数多くの地域のために働ける総務省を選びました。

座長：日本全体のために働きたいと考えたのはどうしてですか。

野口：個別の問題を解決するためには、一部の地域にとどまらず、広い視野に立って日本全体で物事をとらえる必要があると考えました。

野口 貴博（平成23年度採用）

Takahiro Noguchi



消防庁消防・救急課

新崎 可奈子（平成22年度採用）

Kanako Arasaki



自治税務局固定資産税課

尾形：私は民間の就職活動も行っていたのですが、学生時代に勉強したプログラミングを活かしてみたいという思いや、人のため、社会のために働きたいという気持ちもあった中で、総務省が技術系の採用を行っていることを知って、電気通信分野であれば自分の知識を活かせるなと思い、総務省を志望しました。

座長：普段の仕事を通じて「人のため、社会のために役立っているな」という実感はありますか。

尾形：市外局番の統一は市町村が一体感を維持する上で重要なことだと考えていますが、統一が実現した後、市町村の職員がわざわざお礼に来てくださったときは「頑張ってたよよかったな」と思いました。

石川：私の場合、就職活動は国家公務員一本に絞って行っていたのですが、具体的にどこの省庁を希望するかは、複数の省庁を訪問する中で決めました。総務省では面接してくれた方が、私の興味を持っている業務について、懇切丁寧に教えてくれて、「自分もそんな仕事をしたい!」と具体的にイメージができたことが大きかったと思います。

座長：面談を進めていく中で志望が強まったということでしょうか。

石川：はい。今携わっている仕事はまさに自分が興味をもって臨める仕事であって、その興味が総務省への「縁」につながったと思います。少しでも情報通信分野に対して興味をお持ちの方は、是非、総務省にお越しいただきたいと思います。

白土：私は「統計」という数字を全国的に比較できるところが総務省の魅力だと思いました。総務省以外の統計は施策立案のための小規模なものが多いのですが、総務省では標本数も多く、規模も全国的に実施しているので様々な場面で活用できるという点は総務省ならではの点だと思います。

座長：学生時代から統計に興味をお持ちでしたか。

白土：好きなテレビ番組で紹介されるデータの根拠として、

いつも「総務省統計局」と画面に表示があり、それで興味を持ちました。大学の専攻は統計関連のものではなく、採用前から統計の専門知識があったわけではないので勉強しながら頑張っています。

座長：皆さん、様々な思いを持って日々業務に励んでいるようですが、仕事ではストレスを感じる時もあるのではないのでしょうか。次は皆さんの「息抜き」の方法をご紹介します。

野口：私はランニングをしています。職場にもランニングを趣味にしている方がいるので、業務時間後に一緒に皇居の周りを走ったりしています。

尾形：平日できないことをするという意味では朝、遅く起きるということでしょうか（笑）。あとは、近場まで家族やペットを連れてドライブする中で、家族と話すことが楽しかったりします。

石川：休日は家でゆっくり音楽を聴いたり、友達と遊んだりしています。あと、ネットでレシピを検索して、翌一週間分の弁当を作ったりするのが最近のマイブームです。

白土：私はとことん習い事をやっていて、茶道、料理、ホットヨガに着付けもやっています。平日はランチで同僚や友人としゃべってストレスを発散しています。

染谷：私は休日、ネットで面白い動画を探したり、高校まで野球をやっていたので友人と野球したり、あとはバイクが好きで、山梨や静岡の方まで出掛けたりすることもあります。

新崎：休日はゆっくりすごしたり、掃除をしたりして過ごして、お酒が好きなので夕方からは知り合いと飲みに行ったりすることが多いです。

座長：皆さんそれぞれに楽しい公務員生活を送っているようです。では、仕事面、プライベート面でのお話を伺ったところで、それらの生活と総務省に入る前に持っていたイメージとのギャップなどがあれば教えてくださいませんか。

白土：そうですね、やはり、採用一年目なのに与えられる

白土 香織（平成23年度採用）

Kaori Sirato



統計局統計調査部国勢統計課

染谷 頼成（平成23年度採用）

Raina Someya



行政評価局行政相談課行政相談業務室

仕事の大きさに驚きました。地方自治体の方に委託するための費用の計算など、「今回は比較的金額が小さいから」と言われて任された額が予想以上に大きかったので緊張しました。

座長：本省の仕事は裁量の幅が大きいのが特徴ですね。

石川：私は、関係事業者と打合せをしたり、ヒアリングをしたりしていく中で、若手職員でも世の中が行政に対して求める新しいニーズをこれほどまでリアルタイムで感じることができる仕事に携われるとは、入省前は思いもよりませんでした。

座長：定型的な仕事だけではなく、新しい事態にも対応していく必要がありますね。

石川：そうですね、既存の答えの中から選択するのではなく、新しい答えを創り出していくことが現在の仕事の醍醐味ですね。

尾形：私は、今の部署に配属されたときに電話番号の割当てのような事細かいことまで総務省がやっていることに驚きました。配属後すぐに市外局番の変更に関する業務を任されたので、正直、「私がやっちゃっていいのかな？」と思いながらもがんばりました。

座長：市町村合併に伴う市外局番の変更などは件数も多く大変だったのではないのでしょうか。

尾形：はい。変更によって多くの利用者が影響を受けるので緊張しました。

野口：私が消防財政に携わっている中で強く実感するのは、金額の大きさもさることながら、採用から間もない自分であっても様々な分野において責任を持って任せてもらえるということです。

座長：入省した時期が震災直後だったと思いますが、平時とは違った対応も求められたのではないのでしょうか。

野口：そうですね。首相官邸の危機管理センターに行って会議資料の準備をしたり、大きな余震が生じた際には非常参集したりしましたが、日本全体が大変な時期だったので何とかしたいという思いで頑張りました。

新崎：私は実際の職場の雰囲気ギャップを感じましたね。公務員という「お堅い」イメージがあったのですが、上司と部下で議論しながら方針を決めたりすることもあるので思っていた以上に活気のある職場でした。

染谷：私は体力的にもっと厳しい職場だと思っていましたが、当初思っていた程ではなかったです。もちろん、担当業務によって様々であり、体力的にきつい業務や責任の重い業務に就くこともあるのでしょうけれども、それもやりがいにつながるんだと思います。

座長：それでは最後に、将来、どのような職員になりたいか聞かせてください。

染谷：まだ半人前なので、とにかく今は早く一人前になりたいです。

白土：「常に謙虚であれ」と思います。地方自治体の皆さんの協力があってこそその仕事なので。

野口：上司、部下を問わず、より信頼される人間になりたいです。この一年の業務経験を通してそう感じました。

新崎：総務省は所掌がとても広いので、広い視野をもって様々な角度から物事をとらえられるようにになりたいです。

石川：今の上司のように幅広い知識を持った、熱い行政官になることを目標にしています。(笑)

座長:市川 憲史

Norifumi Ichikawa



大臣官房秘書課人事第三係長

尾形：これから入ってくる人に知識や経験だけでなく、志や先輩ががんばった努力なんかも伝えられるようにになりたいです。

座長：ありがとうございました。今回の座談会を通して、受験生と総務省の距離がだいぶ縮まったのではないのでしょうか。これをお読みにになった皆さんとお会いできる日を楽しみにしております。



「日本のICTの国際展開」

情報通信国際戦略局
国際協力課国際支援展開室
情報通信支援係長

吉田 邦彦



ICTの国際展開

私が所属している国際協力課では、日本の情報通信技術（ICT）の国際展開を行っています。具体的には、日本企業の得意分野である「防災 ICT システム」、「電子行政システム」及び「センサーネットワーク」等の海外への売り込みの支援を行っています。主な主戦場は ASEAN などアジア諸国。すでに韓国がアジア諸国では日本よりも先行しており、今後、日本がいかに関与していくかが課題となっていきます。ICT に限らず日本の市場は年々縮小傾向、そのため海外に活路を見出すことが今後の生き残りを図るためには欠かせません。

海外との仕事

海外との仕事の難しいところは、単に言葉が違うということだけではありません。日本では常識だと思うことをまず捨て去ることから始まります。スケジュールどおりに物事がうまく進む、なんて思っているはいけません。約束の時間に相手が現れない、直前になって会議がキャンセル等、何でもあります。いちいち怒ってはいけません。この部署に配属される前の3年間、中東のヨルダンの日本大使館で主に政府開発援助（ODA）に携わっていました。日本の常識が通じないことの方が多かったような気がします。なので、良いか悪いかは別にして、今では日本の常識を客観視できるようになりました。

総務省での仕事とは？

幅広く業務を経験できることが魅力だと思います。ここ数年は、国際関係の仕事に携わっていますが、その前は、地方公共団体や第3セクターに対する支援を通じた地域情報化の業務や総務課で局の取りまとめ業務（国会・広報等）などに携わっていました。それぞれ、全く仕事の進め方が異なっており、非常に勉強になりました。また、情報通信分野は日々目まぐるしく変化しており、日々の業務の中で絶えず勉強していく必要もあります。したがって、「何事にも関心を持つ」という姿勢が大事になってくるのではないかと思います。もし、総務省の情報通信関係部局を希望される場合は、そういったことを念頭に置いていただければと思います。

PROFILE

平成11年4月 郵政省採用
平成17年7月 情報通信政策局
地域放送課企画係長
平成20年5月 在ヨルダン日本国大使館
二等書記官
平成23年7月 現職

とある一週間

月曜日 幹部の海外出張が翌週に決定。出張スケジュールの策定、相手国政府関係者とのアポ取りなど、急に仕事が忙しくなる。

火曜日 上司から、出張に必要な資料の作成指示。過去からの莫大な資料（電子データ）が蓄積されているので、一から資料を作らなくても良いので助かる。

水曜日 国際協力課で進めている調査研究について業者と打合せ。お互い難しい顔をしながら議論して、結局答えは出ず。

木曜日 外国からの訪問者の対応。幹部表敬訪問、意見交換会と終始和やかに進んだ。訪問者が帰った後は、議事録の作成を忘れずに。

金曜日 出張関係の資料を一式完成させ、翌週の幹部説明のために上司に託す。

土・日曜日 土曜日の午前中は英会話レッスン。最近では料金が安いということでオンラインの英会話レッスンも受けています。



前任地ヨルダンでの一コマ

地デジチャンネルのお引っ越し

就活の必需品にも総務省！

今、就職活動をされている方は様々な手段を用いて情報収集をされていると思います。まずは就職先の情報をパソコンで。社会・政治情勢をテレビで。訪問先までの移動経路を携帯電話で。これらのツールは就職活動のみならず現代社会において必要不可欠なものです。その規制・推進を担っているのが総務省の情報通信行政となります。

地デジ移行で終わりじゃないのです

私が所属している情報流行政局放送技術課は、テレビ、ラジオ等の放送に関する技術的な政策を実施しています。皆さんの中にはパソコン・携帯電話による情報収集をメインとされている方も多いでしょうが、東日本大震災の際には多くの方がテレビ、ラジオによって情報を得たのではないのでしょうか。2012年4月からはマルチメディア放送の開始、エリア放送の申請受付と、放送はまだまだ発展中のメディアといえます。

私が携わっているのは地上デジタル放送の許認可、特にリパックと呼ばれるチャンネル変更の業務です。これは限りある電波を有効利用するために行われる周波数再編方法の一つで、アナログ放送終了によって空いたチャンネルにデジタル放送のチャンネルを引っ越すというものです。地上デジタル放送10ch分を携帯電話やITS（高度道路交通システム）向けに利用するための最後の仕上げといえます。視聴者の方々に迷惑をかけず、円滑にチャンネルが変更されるよう各種方策を検討・実施しています。

情報通信をよく知らなくても…

入省するまで放送技術とは無縁だった私ですが、職場の先輩方からのアドバイスや研修によって、各種法令から地デジの放送方式まで多種多様な知識を身につけることができました。特に放送方式は学べば学ぶほど「よくできたシステムだなあ」と感心させられます。公務員は異動が度々あり、「せっかく知識を身につけても…」と思われるかもしれませんが、これからは通信と放送の融合が進む時代であり、決して無駄になることはありません。民間とは異なり、多面的な視点で物事を考える必要があるのです。日々勉強の毎日です。

情報通信に縁遠い方でも、まずはアクセスしてみてください。きっと興味が沸くと思いますよ。

PROFILE

平成19年4月 総務省採用(技官)
情報通信政策局
放送技術課

平成21年7月 総合通信基盤局
電波部 電波環境課

平成23年9月 現職

とある一週間

月曜日 新設の中継局についてメール審議依頼。地デジ完全移行に向けてスタート！

火曜日 明日の会議資料を作成・印刷。関係者との意識合わせは大変重要です。

水曜日 会議終了後、議事メモ作成と資料の電子データ送付。早めに帰宅してリラクゼーションしながら夕食。

木曜日 実験試験局の技術審査。干渉検討の結果問題がなかったため、議事文書を電子議決システムで関係各課へ回議。

金曜日 実験試験局の議決が完了したので、地方局へ指示。細かい作業依頼を処理して1週間終了。

土・日曜日 子供と一緒に遊んで、昼寝して、ご飯食べてリフレッシュ！仕事も休みもメリハリが大事です。



家族で横浜へ

野中 詠子

人とのつながりが
広がる職場

きっかけは…

総務省を目指したきっかけは、多くの人との出会いのある仕事をしたいという気持ちからです。総務省では、所管する事業が多く、国内外を問わず、多くの人と出会う機会があります。環境の違う人と仕事することで今までにない観点から物事を考えることができ大変勉強になります。入省して1年経ちましたが、本当に多くの人と出会い充実した日々を過ごすことができていると思います。

グリーンICTの推進

私が所属する情報流通振興課では、情報通信技術（ICT）の活用をテーマに電子書籍、電子政府及びグリーンICTの推進などさまざまな政策に取り組んでいます。中でもグリーンICT推進事業は、地球温暖化問題に対して、ICTを活用することで温室効果ガスの排出を削減する取り組みです。ICT機器やシステムを利用すると、ICT機器自体のCO2排出というデメリットがある一方で、ICT活用による人の移動の減少、エネルギー利用効率の改善等多くのメリットもあるため、この特徴をうまく活かすことで、CO2排出を大幅に削減することができるようになります。このような考えのもと、企業や家庭の電力の「見える化」や、さらには自動制御でCO2をどのくらい削減できるかという実証実験にも取り組んでいます。また、このような実験を通して得たベストプラクティスや環境影響評価手法を情報通信関連の国際機関である国際電気通信連合（ITU）へ提案し、国際標準化する等、国際貢献も行っています。

この実証実験やITUへの提案は、技術的な面が強く、法学部出身の自分には難しいと感じるときもあります。また、知識も経験も圧倒的に違う事業者の方々と調整していくのはなかなか大変な面もあります。しかし、関係する方々が情熱をもって取り組まれている姿を見ると、私ももっと頑張らなければいけないという気持ちになります。

総務省の魅力

情報通信行政に携って思ったのは、職場でPCに向かって考えていてもなかなかいいアイディアは浮かんでこないなということ。なので、研修や現地視察等、積極的にいろんなことに挑戦し、様々な情報を吸収できるよう心がけています。自分の勉強不足を反省することもあります。そんな自分にも根気強く付き合ってくれ、拙い意見も聞いてくれる上司や先輩がたくさんいます。総務省なら、きっと自分のやりたいと思える仕事を見つけられると思います。

PROFILE

平成23年4月 総務省採用
情報流通行政局
情報通信作品振興課

平成23年7月 現職

とある一週間

月曜日 次の日の有識者会議に向けて事業者の方と会議の進行や資料の最終チェックをします。

火曜日 有識者会議当日。構成員の方々の意見は自分に新しい気付きを与えてくれます。参加者の指摘や意見をメモ取り。

水曜日 大学の先生に次年度事業の執行に関して相談。わからない言葉が出てくることも多々あります。打ち合わせのあとはメモ作りをしながら調べます。

木曜日 省外の会議の傍聴。自分の担当している事業に関係する部分もあり勉強になります。

金曜日 1週間の整理をしつつ来週にやらなければいけないことを洗い出します。夜は課のみんなで飲みに行く日もあります。

土・日曜日 同僚(上司)の所属する総務省野球部の試合の観戦。晴れた日に外で過ごすのがリフレッシュになります。



チームメイトと

インターネット利用環境 整備の現場から

総合通信基盤局電気通信事業部
データ通信課事業振興係長

色部 俊昭

IPv6対応の推進

現在、インターネットは、国民生活や社会経済活動に必要な不可欠なものとなっており、日常生活の様々な場で活用されています。このインターネットを利用する上で重要な役割を担っているのが、IP アドレスです（インターネット上の住所に相当。）。この IP アドレスの数には制限があり、2011 年の 4 月には、アジア太平洋地域に IP アドレスを分配している APNIC 及び日本の IP アドレスを管理している JPNIC における IPv4 アドレスの在庫が枯渇してしまいました。今後は、既に分配された IPv4 アドレスを有効に活用しつつその後継規格である IPv6 アドレスを早期に導入することが重要となります。現在、私が所属しているデータ通信課では、電気通信事業者等の IPv6 対応の促進方策や IPv4 から IPv6 への移行期において想定される様々な課題を解決するために必要な施策を検討、実施しています。

研究開発の推進 ～ネットワークの省電力化～

今後、情報通信分野の基幹サービスとして様々な分野で利用されていくことが期待されるクラウドサービスについては、その通信量が急増することによって、ネットワークの消費電力が益々増大していくと考えられています。この課題に対応するため、データ通信課では、民間企業や大学に委託して、高信頼・省電力なクラウド基盤の構築に向けた研究開発を推進しています。研究開発の実施に当たっては、所期の研究目標を達成するだけでなく、有効性、効率性を確保しつつ適切に予算執行を行うことが求められます。そのため、研究開発を委託した民間企業や大学と何度も打合せを行いながら、研究開発の進捗管理を行うことも重要な業務の一つになります。

情報通信行政の魅力

総務省は幅広い業務を所管しておりますが、ここでは、私がデータ通信課で担当している業務の一部をご紹介します。日々の業務に当たっては、様々な関係者の方々のお話をお伺いする機会が多く、新しい技術や日本が直面する諸課題に関する多くの情報に触れることができます。新しいことを学ぶことが好きな方や、国の視点に立って多様な仕事に挑戦してみたい方は、是非とも総務省を志望していただければ幸いです。

PROFILE

平成15年4月 総務省採用(技官)
平成15年8月 情報通信政策局
技術政策課研究推進室
平成17年8月 総合通信基盤局
電波部電波環境課
平成20年7月 総合通信基盤局
総務課
平成22年7月 現職

とある一週間

月曜日 外部会合にオブザーバとして出席。
職場に戻り、上司と今後の対応方策を検討。

火曜日 本日も外部会合にオブザーバとして出席。より良い解決策を導出するため、事業者と個別打合せを打診。

水曜日 今日は、職場に籠もって資料作成。
夜は早めに帰宅。

木曜日 事業者と打合せを実施。打合せ内容を課内に共有。

金曜日 気分転換のため、昼休みは外出。午後は、翌週に予定されている会合に備えて資料作成に集中。

土・日曜日 休日は、仕事を忘れてゆったりと過ごす。



研究開発予算を精査

浅川 佐和子

目に見えない電波を 守るために

電波が突然途切れたら・・・

多くの人が1人1台以上の携帯電話をもっている時代になっています。また、皆さんの安全を確保するために、警察や消防といった分野を始めとする数多くのシーンでも、無線通信が活躍していることをご存じの方も多いのではないのでしょうか。

そんな中で突然電波が遮断されてしまって、都心部でいきなり携帯電話がつかなくなったらと仮定した場合、ビジネスシーンに多大な影響が出るだけでなく、皆さん、とても不安になってしまいますよね。

電波と高層ビルとの関係って？

無線回線が通っている土地の上に高層ビルが建ったら、当然電波は遮られてしまい、その電波を使用した通信はできなくなってしまいます。そうしたことを未然に防ぐために、重要な無線回線の通っている場所に、高層ビルを建築する場合には総務省に届け出てもらい、その高層ビルが建つことにより無線回線に障害を与えないかどうかを確認する制度を、私が今担当している電波伝搬障害防止制度と言います。仮に障害を与えると判断した場合には、その高層ビルは2年間建築工事を行ってはいけないことになっていますので、その間に双方は障害が発生しないように対応を協議することになります。

古くから頑張っています。

私も担当に配属になって初めて知った制度なので、もちろん知らない方が多い制度だと思います。この制度は、昭和30年代に導入された古いものですが、そのおかげで障害が発生する前に、無線回線を迂回させたり、高層ビルの形状を変更したりといった対応がとられ、通信が途切れてしまうことを今現在でも防いでいる制度なんです。

総務省は時代の最先端を行く情報通信分野を所管し、日進月歩で進化しているものに対応するための業務ももちろんありますが、その一方で陰ながら古くから活用されている制度があること、総務省の所管する業務が多岐に渡ることがこのようなところからも理解していただけたら嬉しいです。

PROFILE

平成17年4月 総務省採用
総合通信基盤局総務課
平成17年8月 郵政行政局
信書便事業課
平成19年7月 総合通信基盤局
総務課
平成22年7月 総合通信基盤局
電波部基幹通信課
重要無線室
平成23年7月 現職

とある一週間

月曜日 週始めということで、課内ミーティングを実施し、他の課員のスケジュールを確認。

火曜日 各総合通信局の担当者とのWEB会議を開催。メールのやりとりと違い、直に意見を聞く機会は大事だと再認識。

水曜日 昨日の会議模様を作成しつつ、検討課題の洗いだしを行う。通達の現行化を図るためにも改正が必要なが判明。

木曜日 同期女性陣と銀座にランチに向かう。今日は新規開拓して入ったことのないお店にチャレンジ!

金曜日 通達の改正案を作成し、局内の法規担当に相談。その結果を踏まえ、1次案を各総合通信局の担当者に確認依頼のメールを送付。

土・日曜日 平日は簡単にすましてしまいがちなので、休日はゆっくり料理を作る。上手にできたので、大満足。



国立科学博物館前にて

先輩の一日

国際会議の一日

砂川 友美 *Tomomi Sunakawa*

郵便課 国際企画室

1

9:00 AM

アジア=太平洋郵便連合 (APPU) の会議に出席するため、上司と3名でモンゴルに出張です。



2

10:30AM

APPUは郵便に関するアジア=太平洋地域の地域連合で、年に1度会議が開催されます。29の加盟国や、国連の専門機関の万国郵便連合 (UPU) など関係機関から約200名が参加します。写真は休憩時間にUPU国際事務局長と。



3

13:30PM

お昼の休憩時間に会議会場近くの国会議事堂まで散歩。始めて訪れる国だと、短時間の散歩でも新鮮です。



4

14:00PM

会議では、APPUの組織運営や郵便サービスの質向上のための取組などについて、英語で議論が行われます。私は議事内容のメモを取り、帰国後報告書をまとめます。



5

19:30PM

会議最終日ということで、ホスト国のモンゴル主催レセプションが開かれました。食事前にモンゴルの伝統音楽が披露されました。日本ではなかなか聞く機会のない音楽に感動です。



6

20:00PM

1週間の会議も無事終わり、他の参加者と一緒にレセプションをエンジョイ!レセプションは、各国の参加者とざっくばらんに話が出来るいい機会です。各国の郵政事情についての情報交換も行います。



ひとことメッセージ

私は、入省前、いつか国際会議に出席してみたいという希望を持っていましたが、国際企画室に配属され、幸運にも入省した年から国際会議に出席する機会に恵まれました。国際会議では、様々な国の方と話すことが出来、毎回私ももっと勉強しなければ!と刺激を受けて帰国します。国際的な分野を経験してみたい方も、是非一度総務省に足を運んでみてください。

砂川 友美
PROFILE

平成22年4月 総務省入省
情報流通行政局郵政行政部
郵便課国際企画室(現職)

衛藤 美和

一歩踏み出した先で、何を掴むか

国家公務員制度改革の最前線で

人事・恩給局での4年間を振り返りますと、最初の2年間は、能力・実績主義の人事管理の徹底を図るための制度作りを行いました。政令や基本方針の策定には厳格なルールがあり、閣議決定の手续や詳細な文書様式を覚えるのに一生懸命だったのを思い出します。

その後の2年間は、労働基本権を制限されている国家公務員に協約締結権を付与するための検討に携わってきました。

どちらも公務の世界に初めて導入する制度であり、前例に囚われない発想が求められる貴重な経験となりました。

人事行政も国際舞台へ！

国家公務員の人事管理というと、海外とは縁遠いイメージを持つ人も多いかもしれません。かく言う私も入省前はその一人でしたが、蓋を開けてみれば、この4年間で5度の海外出張を経験させていただきました。我が国の公務員の労働基本権の問題については、国連の専門機関の一つである国際労働機関（ILO）の関心も高いことから、人事・恩給局では、ILO に対して公務員制度改革の進捗について報告を行う他、毎年6月に開催されるILO 総会では、スイス・ジュネーブにあるILO 本部に赴き現地対応を行っています。私は政府代表団の一員として約3週間ジュネーブで仕事（会議報告作成、情報収集等）をしましたが、現地では、出張者それぞれに役割が与えられ、経験の少ない若手であっても主体的に行動することが求められます。すぐに指示を仰げる上司がいない環境で、当初は不安もありましたが、責任を持って（時には大胆に）行動する勇気が身につきました。また、滞在中は、ILO 条約の専門家と対面で議論する機会も得ることができ（勿論英語です！）、国際舞台では積極性が物を言うことを痛感しました。

新たな目標とともに

入省当初、上司や先輩との知識・経験の差に圧倒されていた私も、幾つかの国際会議を経験した今、我が国が抱える問題を国際基準で俯瞰して捉える力を養う必要性を強く感じています。今後も勉強と経験を積み、国内での政策立案に新しい風を吹き込む人材になりたいという、新たな目標も生まれました。

若い勇気と情熱を受け止めてくれる場が、ここ、総務省にあります。皆さんと共に、躍動感溢れる日々を過ごせることを楽しみにしています。

PROFILE

平成20年4月 総務省採用
人事・恩給局
任用第一係

平成22年4月 現職

とある一週間

月曜日 朝の係内ミーティングで、一週間の業務内容を確認。文書管理など局内照会の作業依頼を仕上げ、提出。

火曜日 ILOで開かれる委員会に向け、他省庁と協議後、在ジュネーブ国際機関日本政府代表部に電話で対応を相談。

水曜日 定時退庁日は、帰宅後、現在の業務でも使う機会が多い英語の勉強に専念。

木曜日 来週予定しているイギリス制度調査の出張準備。既に完成している数十時間の調査事項に優先順位を付け、上司とヒアリングの戦略を練る。

金曜日 在イギリス日本国大使館の書記官と、現地での日程について最終確認。訪問先での配布資料や現地の地図を印刷。

土・日曜日 現代アート的美術館や屋外展覧会巡りへ。面白い作品に出会ったときの衝撃はとても奥深く、アート巡りはやめられない。



ILOにクジャクが!?驚く筆者

より良い行政を目指して!

行政管理局管理官
(外務・防衛・農水等担当)

吉田 光

「行革」を推進する立場でもある総務省

現在、消費増税の言わば環境整備としての「行革」が加速しようとしています。「自ら身を削る」ことの是非論はともかく、時代の要請に応じて行政を最適化するための取り組みである「行革」は、永遠の課題です。

「内閣及び内閣総理大臣を補佐し、支援する体制を強化する役割を担うものとして設置」され、「行政の基本的な制度の管理及び運営を通じた行政の総合的かつ効率的な実施の確保」というミッションを負っている総務省が、政府を挙げての「行革」に果たすべき役割には少なからざるものがあります。

私自身これまでに、様々な「行革」課題について、改革の推進側として、方針の策定や各府省庁との調整・折衝などを担当し、ドブ板を踏んだり綱渡りをしたりといったスリル(?)も味わいつつ、改革が実現した時の達成感も味わってきました。

バックグラウンドは「おかしいこと」を「おかしい」と言う仕事

とは言え、困っている人の助けになる「行政相談」って面白そうだな…と、採用された時には、こんなこと(?)になるとは夢にも思いませんでした。地方勤務の3年目に、今とは真逆の「増税なき財政再建」を旗印に、伝説の「土光臨調」が発足することになり、一連の人事異動の一番尻尾(!)として本省へ転勤になったことから人生は大きく変わりました(笑)。

そうした「行革」の仕事に関わることができたのも、「おかしいこと」を「おかしい」と言う、「政策評価」や「行政評価・監視」という仕事の「畑」のバックグラウンドがあったからだと思っています。行政評価局が有するこうした機能に対しては、「行革」を強力に推進するためにも、より一層の期待が高まっています。

キーワードは「変化への対応」

ちなみに、「土光臨調」が掲げた「行革」の観点の一つが「変化への対応」です。

これは「行革」の本質を突いたキーワードであると同時に、これまでの私自身にも、そして、これから次代を担う皆さん自身が成長し変化を遂げていかなければならないという意味においても、良く当てはまるキーワードです。

これからの公務部門を取り巻く環境は益々厳しいものとなり、少数精鋭で乗り切らなくてはならない局面も多々予想されます。そういう中で、より良い行政を目指して、的確に変化に対応していける、そんな「変える力」や「変わる力」を秘めている「あなた!」、是非、一緒に仕事をしてみませんか。

PROFILE

昭和53年4月 行政管理局採用
中部管区行政監察局
昭和56年4月 行政管理局長官官房
秘書課
平成18年1月 内閣官房行政改革
推進事務局
公務員制度等改革進室
企画官
平成19年4月 総務省行政評価局総務課
政策評価審議室長
平成20年2月 内閣府地方分権改革
推進室参事官
平成22年7月 総務省行政評価局
評価監視官
平成23年1月 現職

とある一週間

月曜日 担当2ラインと打合せ(今週が山場…。定員査定を巡り、F省、A省の担当課長と数回目の折衝(タフなネゴをしつつも、収めの知恵を絞る)

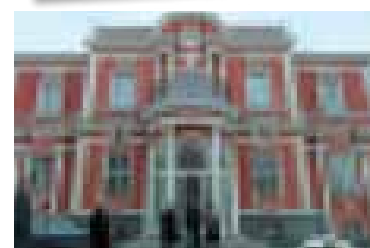
火曜日 A省担当課長から状況報告(一点の光明が…。原課課長から陳情(言いたいことは良く分かる。しかし…。)政務折衝案件の対処方針の局議。F省担当課長から朗報(ヤッター!))

水曜日 幹部検討。政務レク。A省との政務折衝に立会(実質決着にホッ♡)。夜、上京してきた旧友を囲む会合へ(酒もうまいぜ!)

木曜日 R庁の新設問題でA省関係課長へ協力要請。夕方、懸案のH案件についてA省からの連絡を受け、幹部へ報告。

金曜日 臨時国会会期末。D省設置法改正案が廃案となり幹部へ状況説明。F省担当課長が最終報告に。

土・日曜日 マンションの理事会で大規模修繕の打ち合わせ。池袋でかみさんと映画を見てから夕食の食材を買い出し。娘夫婦らと晩餐(今宵の酒もうまい)



海外出張で訪問した、在ラトビア日本大使公邸前で。

高岡 信行

しっかりこなす+考える
仕事です



毎月、緊張感の中で…

「総務省が○日発表した労働力調査によると、△月の完全失業率は…」このような報道を皆さんも見聞きしたことがあると思います。私は、その労働力調査の公表を担当しています。統計業務は、調査の企画・設計に始まり、記入していただいた調査票の回収、各種集計の行程を経てようやく公表を迎えます。私の仕事は、野球の投手継投に例えるなら、クローザー（抑え）という役割になるでしょうか。ミスなく最後を締めて当たり前というプレッシャーがありますが、その分無事公表を終えた後には充実感（≒安堵感）を覚えます。

単調ではないのが魅力

「ん？統計業務なんて、ルーティーンの単調作業でしょ？」と思われるかもしれませんが、そんなことはありません！毎月の調査でも考えるべきこと、工夫の余地はたくさんあります。例えば…

- ①毎月、数値の変動要因を、背景にある社会要因、関連データ等を総合して考えます。
- ②ウェブサイトの構成、注釈の記述、より合理的なチェック方法…日々改善を意識・実践することは必要であり、楽しみでもあります。
- ③時代の要請（産業分類改定、ILO 決議など）により結果表を変更します。
- ④多くの尊い命が犠牲になった東日本大震災…労働力調査では、2011 年 3～8 月の全国集計ができなくなり、代替として岩手、宮城、福島を除く結果を公表しました。

など取り組みは様々です。野球の打席に例えるなら、次々と投げ込まれる変化球を打ち返しているようです。先人の知恵継承だけではなく、新たな変化を把握し過去にとらわれない / 例のない対応を迫られているのです。これらに対して、皆で考え、コツコツ進めていくところに醍醐味があります。

社会へ数字でメッセージを送りませんか？

統計は、客観的な定量情報を提供することで社会にメッセージを送っています。その数字は、政策立案に活かされ、将来まで残ります。野球の試合運営に例えるなら、実況・解説と公式記録員の役割を担っているのです。（…と、さも立派に仕事をしてそうに聞こえたかもしれませんが）まだまだ自分の至らなさを感じます。でも、上司や同僚、後輩から学び一緒に仕事をしていける職場です。総務省の業務に興味を持たれた方は、ぜひ一緒に仕事をしませんか？

PROFILE

平成13年10月 総務省採用
統計局総務課
企画調整係
平成19年 4 月 統計局統計調査部
消費統計課物価統計室
物価指数第一係
平成20年 4 月 統計局統計調査部
消費統計課
物価統計室物価指数
第二係長
平成22年 4 月 統計局統計調査部
国勢統計課労働力
人口統計室統計専門職
平成20年 7 月 現職

とある一週間

月曜日

翌週ウェブサイト掲載の文章を上りと結める。また同時掲載の加工データを作成していると…国会議員さんからの資料要求が飛び込む。

火曜日

室内会議で進捗報告し、今後の検討事項やスケジュールを再確認。また月末に使う審査用ファイルを準備（今月は特殊対応多し…）。

水曜日

集計に関する依頼を関係者へ送付。優秀で気が利くプログラマさんにはいつも助けられています（感謝!!）。

木曜日

ウェブサイト掲載資料の幹部了解を得て一安心。後回しにしていた他府省からのデータ確認依頼に回答。

金曜日

都道府県の方との会議に一部出席。見事に仕切る先輩を見習いたいものです。

土・日曜日

家族で買い物へ行く途中、鳴いた鳥の名前クイズを子供に出題。望遠鏡を使う本格的なバードウォッチング復活の機会をうかがっています。



近所の歩道にて

いろいろな「物差し」で 社会を「見える化」しています

統計局統計調査部消費統計課
物価統計室物価解析第一係長

大澤 朗子

意外と身近な存在？

私は現在、総務省で「消費者物価指数」という統計の作成に携わっています。新聞やニュースなどで目にされた方もいると思いますが、消費者物価指数は、小売物価統計調査で調査された約 500 品目の価格を用いて、全国の世帯が購入する各種の商品の価格の平均的な変動を指数値として毎月公表されています。

指数というと何だか難しいように感じられるかもしれませんが、例えば、スーパーなどでキャベツが先月より高くなったから別の野菜を買おうとか、旅行代理店に行ったらツアーパックが昨年より安くなっていたので今年は行ってみようかなど、私たち消費者は無意識に過去の値段と比較しながら、商品を購入していることがあります。指数は、この日常生活で“なんとなく”感じている商品の平均的な価格の動きを数値化したものですので、実は私たちの生活に密着した身近な指標といえます。

ズームインからズームアウトまで

消費者物価指数は、物価の動きを比較する時点を決めて、その時の物価に対してどの程度上がったか、又は下がったかを比率のかたちで表しています。例えば、近年は家電量販店などでテレビが安価になっており購入された方も多いと思いますが、昨年は地上デジタル放送への移行により需要が減ったことなどの影響で、テレビは前年比で 30.9% 下落しました。また、原油価格の値上がりなどにより、ガソリンや電気代などのエネルギー品目の前年比が上昇しました。全品目の物価の動きを総合した総合指数の前年比は - 0.3% と 3 年連続下落しています。

このように比率で表すと、個々の品目から物価全体の動きまで時系列的にみることができるので、国や地方自治体の行政だけでなく、民間企業などにおいても広く活用されています。

統計という「ものづくり」

総務省では、他にも世帯や企業などに関するさまざまな統計を作成、公表しており、代表的なものとしては国勢調査や経済センサスなどがあります。統計の作成は地道な作業ですが、目的や時代に合わせて調査の内容や作成方法等を見直し、実査から調査データの集計、統計表の作成などの多く工程を経て、社会の現状を統計データという目に見えるかたちにしていく、大変やりがいのある仕事です。これは、道具となる「物差し」を自ら作り、長い歴史のある伝統を守りながら、新しいものも取り入れていく「ものづくり」に通じるものがあります。

また、総務省では、統計以外にも様々な業務がありますので、興味をもたれた方は、ぜひ説明会等にご参加ください。

PROFILE

平成 8 年 4 月 総務庁採用
統計センター管理
情報処理課
平成 12 年 4 月 統計センター管理部
電子計算室運用第 3 係
平成 15 年 4 月 独立行政法人
統計センター製表部
情報処理課上級製表職
平成 20 年 4 月 独立行政法人
統計センター
情報技術部情報処理課
上級情報技術職
平成 21 年 4 月 現職

とある一週間

月曜日 今週は統計調査の公表があるため、係内で公表資料の確認。

火曜日 統計データについての問合せ対応。分かりやすい説明を考えるとことで、自身の勉強になることを改めて実感。

水曜日 明日の打ち合せ資料の確認。昼休みは久しぶりに同期と外でランチ！

木曜日 統計の作成方法等について打ち合せ。現状の把握と今後の対応について検討しつつ、次回テーマを確認。

金曜日 今日は、統計調査の公表日。今月の公表も無事終了！

土・日曜日 友人と郊外の農園レストランへ。美味しい有機野菜を堪能。



郊外でリフレッシュ

人事・恩給局

行政管理局

行政評価局

統計局

政策統括官
(統計・数値担当)

「国際統計」で世界を知ろう

政策統括官（統計基準担当）付
国際統計管理官付
統計専門職

田中 留美

日本は世界で第何位？

日本は世界第2位の経済大国、世界第1位の長寿国…などなど、小学校の社会科の授業から始まり、毎日のニュースに至るまでよく耳にしてきた統計情報。これによって、私たちの世界観がある程度形作られると言っても過言ではないでしょう。

これらは、国連等の国際機関が、各国の統計部局より統計データの提供を受け、取りまとめた上、公表しているものです。その際、各国の統計データを国際比較可能なものとするため、国際機関では、統計データの定義など国際的な基準を設けるとともに、後進国に対しては技術支援等を行い、さらには、基準そのもののレベルアップも図ります。これが私が従事する「国際統計」という業務の絵姿です。

日本と世界の狭間で

私は、国際機関から日々流れてくる意見照会や作業依頼に対し、各府省の担当者と連携を取りつつ我が国の方針を取りまとめる、いわば日本の統計行政の国際窓口であり、「調整役」の立場にあります。そしてこの積み重ねは、国連統計委員会や OECD 統計委員会等の国際場裏における我が国の立場表明へとつながっていきます。

しかし、統計分野一つ取ってみても、統計技術、優先度、人的資源など各府省間で相違があり、国内調整は一筋縄では行きません。ましてや、諸外国との合意形成は根気を要する仕事です。調査研究に熱心な欧州諸国、IT技術活用に意欲的なアジア諸国、まずは援助が必要な後進国など世界各国の思惑が渦巻く中で、統計先進国として日本は何ができるのか、模索する毎日です。

日本を知りたい人々へ届くように

このような「調整役」としては、あらゆる統計について深い造詣が必要です。国民経済計算、農業統計、国際貿易統計から始まり、最近、ブータンの「国民総幸福量」で脚光を浴びた「幸福量」の測定まで、網羅すべき範囲は無限であり毎日が勉強です。しかし、このような努力は、いつの日か、世界のどこかでインターネット画面を目の前にして、日本の統計データにアクセスしようとしているユーザーに届く情報が少しでも増えることにつながると信じています。そこには、正解や決められた手法はありません。統計を通じ、世界を舞台として無地のキャンバス地に自分が信じる行政の在り方を描いていく、そんな仕事をしてみたい方、ぜひ総務省の門を叩いてみてください。

PROFILE

平成9年4月 総務庁採用
関東管区行政監察局
平成10年4月 総務庁
神奈川県行政監察事務所
行政相談課
平成13年4月 総務省行政評価局
行政相談課
平成17年9月 短期在外研究員
(アメリカ合衆国)
平成18年4月 総務省行政評価局
評価監視調査官
平成20年7月 総務省行政管理局
企画調整課
行政手続・制度調査室
調査研究係長
平成21年7月 総務省
行政管理局主査
平成23年7月 現職

とある一週間

月曜日 国連統計委員会出席のため11日間のN.Y出張を控え、政策統括官と最終打ち合わせ。

火曜日 議場での発言の英訳について、各省と最終調整。微妙な言い回しにまで気を遣います。

水曜日 明日からの長期不在に備え、同僚へ入念に仕事の引継。

木曜日 N.Yへ向けて空路13時間の旅。昼夜逆転する現地到着後、すぐに仕事に臨めるよう、機内では睡眠確保が第一。

金曜日 朝から夕方まで、国連統計部主催のセミナー。この日のテーマは「世界の人口70億人へ」。

土・日曜日 アジア地域の非公式会合へ出席。統計研修事業へ提出する資金問題など喫緊の課題について議論。



N.Y国連本部にて、日本政府代表団集合！

先輩の一日

1

オンオフ共に充実した一日を

松村 麻美 Asami Matsumura

年金記録確認中央第三者委員会事務局 調査員

電話…

全国に50ある年金記録確認第三者委員会及び事務局の体制整備が私の仕事です。各事務局との電話が毎日のようにあります。伝達漏れがないよう気をつけなければならない反面、全国の先輩方とお話できる貴重な機会の一つでもあります。



2

書類作成

幹部に対する説明書類を作成し、説明の際に使いやすいように資料の組み方を考え、セットしていきます。いい仕事のためには、小さな心配りが必要です。



3

ランチ

待ちに待ったランチ、今日はみんなでイタリアンです。おいしいお食事と楽しいおしゃべりで仕事を一時忘れ、気分もリフレッシュ。午後の業務への英気を養います。



4

上司に説明

先輩と一緒に上司に地方委員会の体制について説明。どうしたらそんなに上手に説明できるのかしら…と先輩の説明の仕方をしっかり頭に入れます。職場での経験一つ一つが今後の仕事の糧です。



5

打ち合わせ

来年度の委員会体制に関する全体打ち合わせ。作成した書類を地方に送付する前に色々とご指摘をいただきます。自分では気がつかなかった点がたくさんありました。内容を修正して全国の事務局にメールで送信！



6

アフターファイブ

仕事終わりに英会話へ。常に向上心を忘れず、自分磨きをしています。また、仕事終わりにジョギングをすることも。日中座ってばかりなので、体を動かすことも大事です！



ひとことメッセージ

入省して最初の配属先、戸惑うこともありましたが、職場の方々がとても優しく、仕事に関することはもちろん、業務以外のことについても色々教えていただいています。また、各都道府県に事務局があり、人と人とのつながりが業務に活きる仕事です。みなさんも総務省で人のつながりが作り出すパワーを体感してみませんか？

人事・恩給局

行政

行政評価局

統計局

政策統括官
(統計室担当)

総務省で働く魅力とは

自治行政局行政課行政第二係長

堀 文彦



「霞ヶ関」でも地方自治の最前線

私は地方自治法等による地方自治制度の企画立案を主に担当しています。所管法令の立案の他、日々地方公共団体において生じる諸課題に関して法令解釈や過去の行政実例を踏まえた助言等により地方自治の現場でまさに進行している様々な議論に霞ヶ関から参画しています。総務省の職員は国の公務員であるとともに、地方公共団体の立場の代弁者としての役割も有します。各府省の政策や法律・政令案等に対して、地方自治の立場から「あるべき制度」とすべく地方公共団体を代表して意見を述べ、協議を行うことも重要な業務です。

我が国の地方自治制度を創る

『原発避難者特例法』をご存知でしょうか。昨年の未曾有の大災害に伴う原子力発電所の事故では、多数の住民や役所自体も避難する事態が生じました。この法律は、避難元の地方公共団体から行政サービスを直接受けることができない避難住民に対して避難先において必要なサービスを提供する地方自治法の特例を定めたものです。片山善博大臣（当時）の随行による数度の福島県訪問をはじめ担当係長として立案に参画しました。この法律が避難住民の生活に大きく役立っていることは大きな喜びであり、総務省の職員としての使命を新たに感じたところです。

最近「大阪都」や「特別市」等多くの地方自治制度に関する構想が紙面等で取り上げられています。また、地方議会の活性化等の諸課題への対応も求められています。我々はこのような我が国の統治機構を大きく見直す議論をはじめ様々な場面において我が国の地方自治を創る仕事に携わっています。

次の時代を担う皆さんへ

入省十余年が経過する今、これまでの自分を顧みれば、総務省において地方行財税制のそれぞれの要の業務に携えることができ、若くして地方公共団体勤務、他省への出向、更には海外赴任と貴重な経験を得、またそれぞれの職場で、高い志を持つ上司、同僚、同期の仲間、国内外の地方自治関係者と仕事をする機会に恵まれました。これらの経験を生かし、今後も大きく社会が変化していく中で地方自治の重要な仕事に従事することができ、総務省を志望したことは間違いではなかったと確信しています。

次の時代の地方自治を担う皆さん、総務省でお会いしましょう。

PROFILE

平成12年 4月 自治省採用
大臣官房会計課
平成13年 1月 総務省自治行政局
管理審査専門官付
8月 自治財政局地方債課
平成14年 4月 香川県政策部
地域振興課
平成15年 4月 政策部自治振興課
平成16年 4月 国土交通省
国土計画局総合計画課
平成18年 4月 自治体国際化協会
総務部企画課主査
10月 シンガポール事務所
所長補佐
平成21年 4月 総務省自治税務局
都道府県税課
直税第一係長
平成22年 4月 自治税務局
都道府県税課法制係長
平成23年 4月 現職

とある一週間

月曜日 出勤間もなく、国会議員の秘書さんから地方自治法の解釈について問合せ。週明けを感じます。

火曜日 地方自治法施行令の一部を改正する政令の立案作業。午後は国土交通省との協議です。

水曜日 翌日の衆議院総務委員会における質疑の準備のため地方議会制度に関する答弁資料等の作成。

木曜日 早めに仕事を切り上げ、課内有志で夜の街へ。同じ鍋をつついて地方自治を語る。

金曜日 政令案の概要・規定振り等について内閣法制局参事官の審査を受ける。指摘事項への対応や追加説明資料を作成。

土・日曜日 久ぶりに家族サービス。朝5時起床で静岡県に一日旅行。清水港のすし、イチゴ狩り、そして子供の笑顔を堪能しました。



家族旅行での静岡県での一コマ

高橋 大樹

「地上の星」さがし

「人」に着目した職場

地域活性化を図るためには、補助金や交付金などの財政面での支援も重要ですが、地域の人々が元気に、活き活きと活動できる状態を作り出すことも考える必要があります。活発な地域活動も活性化策を推進するのも、結局はそこに住む様々な人材が力を発揮してこそなされるものです。このような観点から、私が所属する人材力活性化・連携交流室では、22年度に自治体や地域活性化に関わる団体等が、地域の人材を育成・強化する場合の参考として用いることや、各種取組の「気づき」となることを期待して、地域で求められる人材像や、人材力活性化の取組における具体的な事例を数多く盛り込んだ「人材力活性化プログラム」を作成し、23年度にはこのプログラムを実際に活用した研修の企画運営に取り組んでいます。その他、都市住民を地方へ誘致し、その定住・定着を図ることで地域力の維持・強化を図ることを目的とした「地域おこし協力隊」や東日本大震災の復興をサポートするための「復興支援員」など、「人」に着目した施策を展開しています。

「地上の星」は存在する

「人」に着目した施策を展開しているため、実際に活動の現場に赴き、ヒアリングや実態調査を行うことも多く、様々な人が各地で自分達の地域を盛り上げようと知恵を出し合い、壁にぶつかっても乗り越えようと精一杯活動している状況を目の当たりにしてきました。以上の経験から、地方や地域を考える際には、行政区画などのエリアで捉えるだけでなく、地域住民という言葉ば最小単位に思いを馳せ、施策等を企画する必要性・重要性を意識するようにしています。様々な形で地域活性化に取り組んでいる人々はまさに「地上の星」であり、そんな方々に勇気づけられると同時に当室を通して少しでも活動の後押しができないか、スポットライトを当てられないかを日々思索しています。

熱い思いに触れてほしい

先日、当室で企画した地域の人づくりに関する研修の最後に、受講生から握手を求められ、こう話されました。「研修で目頭が熱くなった経験は初めてだ。ありがとう」と。ビジネスライクという言葉では片付けられない、地域おこしへの熱い思いに触れ、共有できる職場が総務省にはあることを、皆さんに是非知ってほしいです。

PROFILE

平成16年4月 総務省採用
自治大学校庶務課
平成17年4月 自治税務局
固定資産税課
資産評価室
平成17年10月 埼玉県総合政策部
市町村課
平成19年10月 公営企業金融公庫
経理部資金課
平成20年10月 地方公営企業等
金融機構資金部資金課
平成22年4月 現職

とある一週間

月曜日 登庁後、手帳で一週間の予定を確認し、何から手を付けるべきか頭の整理。

火曜日 地域おこし協力隊について議員レクの依頼。必要な資料を揃え、議員に制度の説明を実施。

水曜日 ギャップイヤーの報道を受け、当室として何か施策を打てないか、上司と協議。社会の動きを敏感に察知し、行動する瞬発力が求められる。

木曜日 大学と地域の連携に関する取組を調査するため、熊本県に出張。調査後、明日のイベントのため佐賀県に直行。

金曜日 佐賀県で「一日人材力活性化研究会」を開催。大勢の自治体職員・NPO等職員の参加のもと、大盛況で幕を閉じる。

土・日曜日 妻と行きつけのビストロで気分転換。



出張先の長野県飯田市にて

織田 知裕

日本の未来を創る

ホットな職場

私が所属する自治財政局調整課は、各省庁が行う政策に対し、地方自治体の立場から意見し、その名のとおり「調整」をする課です。必然的に日本のあらゆる重要課題がこの課に集まります、なぜか。それは、日本の行政が、ほとんど全て地方自治体を通して行われるからに他なりません。児童手当（子ども手当）、被災地のがれき処理、消費税…このように新聞の1面になるような課題が日々持ち込まれる、霞ヶ関でもめずらしい課でしょう。

それらの課題に対し、「我々が地方の代弁者にならなくて誰がやる！」皆がそんな気概をもって、その道のプロである省庁の担当者と議論しともに政策を創っていきます。

これは、決して簡単なことではなくプレッシャーもありますが、熱い想いをもちた同僚や頼りがいのある上司に囲まれ、皆で元気に乗り切ってしまう職場です。

社会保障と税と私

私が担当している社会保障・税一体改革については、耳にしている方も多いかもかもしれません。医療や介護、保育などの子育て施策等々、これから高齢化が進む日本にあって、いかにこれらの社会保障を持続可能なものにするか、国と地方自治体の役割分担をどう考え、そのための財源配分はどうあるべきか。まさに調整課の出番です。

何度も地方自治体と関係省庁間で会議が開催され、お互いの意見の違いを乗り越え、一つの結論にたどりついていきます。自分の作った資料が、会議で大臣の口から総務省の意見として発せられ、政策の一部となっていく。ミスの許されない仕事に緊張の連続でしびれますが、日本の未来づくりの一翼を担っているという感触を肌に感じています。

未来を担うみなさんへ

このパンフレットを手にされた皆さんで、自分のやりたいことが明確に定まっている方はほとんどいないのではないのでしょうか。とにかく、何か人の役にたつことがしてみたい！そんなあなたは、私たちと一緒に「日本の未来を創る」仕事をしてみませんか。

PROFILE

平成15年4月 総務省採用
自治大学校庶務課
平成16年4月 自治財政局地方債課
平成17年4月 福島県総務部
市町村領域
平成19年4月 公営企業金融公庫
管理調査部調査課
平成20年10月 地方公営企業等
金融機構管理部経理課
平成21年4月 総務省大臣官房会計課
監査企画係長
平成23年4月 現職

とある一週間

月曜日 上司と相談しながら、官邸で行われる会議に提出する資料を検討。併せて関係省庁と調整を行います。

火曜日 局内幹部に資料を確認いただくため、会議をセット。忙しい幹部の日程調整がなかなかつかず冷や汗をかく。

水曜日 前日の指摘を踏まえて資料を修正。会議に出席いただく大臣にご判断いただくため、上司に託します。

木曜日 官邸での会議当日。報道機関からの問い合わせに対応します。国会で質問も予想されるため、準備をします。

金曜日 早めに出勤し、新聞記事をチェック。会議でのやりとりと関係者と情報共有し、今後のスケジュールを確認します。

土・日曜日 ようやくの休日。先輩のお宅に夫婦でお呼ばれ。仕事を忘れ、先輩のお子様と遊びます。



親戚とお餅つき(筆者右から2人目)

日本全国知り尽くそう

自治税務局市町村税課
諸税係長 併任 大都市税制係長

岡本 理恵



誰かのために、日本のために

平成 23 年 3 月 11 日。東日本大震災が発生した当時、私は消防庁総務課に所属していました。発生直後から消防庁はすぐに災害対策本部を設置し、情報収集等に奔走しました。前年に消防庁と一緒に働いていた方が仙台市消防局に戻られており、自身も被災者であるのに、消防車を動かすための燃料が届かないどうかしてくれと怒りのこもった電話を受けたときには胸が熱くなりました。一刻も早く燃料を届けように対応しました。

そして私は今、自治税務局市町村税課で市町村税について担当しています。当職においても、津波や原発の被害に遭われている方々に対して軽自動車税を非課税とする特例などを創設しました。被災されて辛い思いをされている誰かのために、日本のためになれたらと思いつつながら制度を作りました。

北海道への赴任

地方自治部局では地方自治体への赴任の機会があります。私は憧れの北海道に赴任させて頂きました。

私の北海道での業務は、市町村財政及び公営企業に関する業務でした。北海道は当時 180 の市町村が存在し、それぞれの市町村が抱える事情や問題を把握するのは大変でした。市町村名からして読めない所がたくさんありました。（「音威子府村（おといねっむら）」、「興部町（おこっぺちょう）」って読めますか？）それでも、北海道赴任中の 2 年間で 180 市町村を回り、実際に風景や食べ物、文化に触れながら、北海道を知っていきました。そして、帰る頃には北海道が大好きになっていました。皆さんにもそういう経験を是非して頂きたいです。

魅力的な出会い

先程の赴任先の話も含めて、総務省には出会いがたくさんあります。職場には、地方自治体出身の職員がいます。彼らは実務に長けており、議論を実務の面から指摘してくれます。それだけではなく、地元のお土産を持ってきてくれたり、名物を教えてくれたりもするので、東京にいながらにして、日本全国のことを知ることができるんです。

総務省は、自らの地方自治体への人事交流でその自治体を知ることができるだけでなく、霞ヶ関にいながらにして地方自治体を知ることができる省です。政策は、まずは一人の住民のために考え、そして日本全国のために考えるものだと思います。そういうことを経験を通じて日々感じながら仕事をできるのが総務省の特色ではないでしょうか。是非一度総務省にいらして雰囲気を感じて下さい。

PROFILE

平成17年10月 総務省採用
自治行政局
選挙部選挙課

平成19年4月 北海道企画振興部
地域振興・計画局
市町村課

平成21年4月 総務省消防庁総務課

平成23年4月 自治税務局市町村税課
10月 現職

とある一週間

月曜日 軽自動車税についての税制改正要望について関係省庁からヒアリング。要望内容をよく確認します。

火曜日 昨日ヒアリングした内容を取りまとめて今後の方針について上司に説明。了解を得たので局議にはかります。

水曜日 今日は、北海道赴任当時の同僚が珍しく東京出張。仕事を切り上げて飲みに行きます！

木曜日 法律改正の案文を作成したので、内閣法制局に審査に向かいます。色々と内容について詰められました……

金曜日 国会議員から地方たばこ税について問い合わせ。資料を作成して相手方に送付します。

土・日曜日 土曜はベリーダンス教室で汗を流します。先生のお手本に惚れ惚れ……



同僚の結婚祝賀会にて課の皆と(筆者二列目の中央)

谷神 善洋

災害対応最前線!

スケールの大きさ

某ドラマで「事件は会議室で起きてるんじゃない。現場で起きてるんだ!」という台詞を耳にしたことがあると思います。これは警察の話ですが、「事件」を「災害」に置き換えてもらって消防にも当てはまってきます。我々消防庁の職員は「会議室」側の職員です。

消防庁では、平時には法律の整備や資機材の調達・配備などを行っております。そして緊急時、地元の消防力だけでは対処できないような災害においては、消防の広域応援である緊急消防援助隊のオペレーション等を行います。

冒頭の台詞は「会議室」側にはネガティブな台詞でしたが、人命救助を目的としたオペレーション業務は非常にスケールの大きい仕事であり、国の職員として働くことを実感しやすい職場だと思います。

オールジャパンとしての対応

消防庁で働く魅力の一つとしてオールジャパンで対応する仕事が多いことです。

東日本大震災時には、発災直後に消防庁危機管理センターに対策本部を設置し、全職員が災害対応にあたりました。また、総理官邸内の危機管理センターにも職員を派遣し、各省庁協力し、政府一体となって災害対応にあたりました。

さらには、被災地に入っただけの災害対応も行っております。

被災地の対策本部に入り現場の情報をいち早く消防庁に伝えたり、政府一体で災害対応する国の現地対策本部員として、関係省庁と連携して災害対応にあたりました。

普段は立ち入ることの無いような総理官邸内の危機管理センターで災害対応したことや、最前線の被災現場で災害対応したことは非常に貴重な経験にもなりました。

国のため、地方のための仕事

冒頭で、「現場」と「会議室」で立場の違いを記述しましたが、消防庁では、実際に現場で消火作業や救急救助活動を行っていた「現場」側の消防職員も勤務しており、現場の話を聞きながら仕事をすることは刺激にもなります。

このように、立場が違えど、国の安全を守りたい、地域の安全を守りたいという方向性は同じですので、一緒になって働くことも楽しさの一つだと思います。今まで消防庁の話をしてきましたが、総務省も同様に、国・地方両方の立場を考えて仕事をしております。

私のように総務省採用で消防庁に勤務することもありますので、興味を持っていたら是非とも総務省に足を運んでみてください。

PROFILE

平成16年10月 総務省採用
自治行政局選挙部
政治資金課収支公開室

平成18年 4月 高知県総務部財政課

平成19年 4月 政策企画部
市町村振興課

平成20年 4月 地方公務員
災害補償基金補償課

平成22年 8月 現職

とある一週間

月曜日

今週から応担当番(輪番制により、月に1週程度当番となる)。勤務時間外に、ある基準以上の災害が発生すれば、直ちに消防庁に駆けつけます。

火曜日

ある災害に関する「関係省庁連絡会議」の開催案内が届く。被害状況や消防の活動状況を報告するための資料を作成し、室長と共に内閣府へ。

水曜日

勤務時間中に某県にて震度5弱の地震が発生!応急対策室の職員で県や消防本部へ情報収集。幸いにも負傷者はいませんでした。

木曜日

政府全体で実施される防災訓練の打ち合わせのため内閣府へ。訓練シナリオの作成を行う。

金曜日

東日本大震災の被害情報の更新日。被災各県から届く被害情報を集約し、消防庁のホームページにアップ。

土・日曜日

当番のため、消防庁から30分圏内の場所まで休日を過ごしていると、某県にて震度5弱の地震が発生!すぐさま消防庁に駆けつけ情報収集。特に被害が無かったのは後には宿直に任せて2時間で対応終了。



消防庁内有志の野球チームでの一枚
(筆者前列左から2人目)

先輩の一日

現場感覚

～過疎地域の取組に触れて～

亀澤 朋加 *Tomoka Kamezawa*

自治行政局 地域自立応援課 過疎対策室

1

今日の出張は、島根県益田市です。

おはようございます！
本日は、1日出張です。
匹見町萩原集落の(株)
「萩の会」の取組みを
視察させていただきます。
今日も元気に頑張りま
しょう！



2

到着したらさっそく先方の担当者と
名刺交換です。

総務省では、全国
の方々と知り合
える魅力がありま
す。
「本日は、1日どう
ぞよろしくお願いします。」



3

ここでは過疎地域の取り組みや今後の課題に
ついて意見交換を行います。

入省2年目の事務官で
も、担当として重要な仕
事を任せられます。
地域が抱える問題など、
現場の率直な意見を頂
戴します。



4

(株)「萩の会」の視察です。



(株)萩の会は島根県
益田市匹見町萩原
地区で活動されてい
ます。
ブルーベリー栽培、
食品加工販売、食堂
の運営の他、縄文体
験など各種体験事
業を行っています。

5

裏匹見峡の写真です。

透明度が高く、思わず美しさにうっとりしてしまいました。
地域の素晴らしい自然や文化に
触れられるのも
魅力を感じてい
ます！
本日の出張はこ
れで終了です。



6

報告書を作成します。

翌日、さっそく職
場の上司に出張
の報告です。
出張の中身につ
いては、報告書
を作成します。
みなさんお疲れ
様でした！



亀澤 朋加
PROFILE

平成22年4月 総務省採用
大臣官房会計課
平成23年4月 現職

ひとことメッセージ

私は入省してまだ2年目ですが、総務省の仕事を通して、様々な分野で活躍されている方々とお会いする機会を頂きました。このような方々と日々一緒に仕事ができることは、とても自分の成長に繋がっています。この他にも、総務省では所管している業務が沢山ありますので、これから色々な業務に携われるのも楽しみにしています。みなさんぜひ一度先輩方の話を聞きに来てみませんか？きっと先輩方の話の魅力を感じるとと思います。みなさんの訪問をお待ちしております!!

先輩職員インタビュー



情報流通行政局衛星・地域放送課 笹山 佳徳

あなたにとって仕事とは

「職場は糧を得るだけの場ではない。ある種の学校だ！」との幹部の言葉が印象に残っています。総務省は、職員同士の連携や外部の方々との接触の機会が多く、色々なことを学べ、自分自身を大きく成長させてくれる職場ではないでしょうか。

仕事の過程で辛い瞬間は多々ありますが、成長過程の一つだと自分なりに理解ができるよう、努力していきたいと思っています。

求める人物像

まずは、心身ともに健康で、常に前向きな、明るい人材が求められているのではないのでしょうか。

志望者へのメッセージ

「総務省」と聞いて、どのようなイメージをお持ちですか。省のキャッチフレーズ“実はここにも総務省”のとおり、国民の皆様にも最も身近なところで、国民生活を支える幅広い仕事を担当しています。まずは、門を叩いてみてください！



統計局統計調査部経済基本構造統計課 稲垣 洋一

あなたにとって仕事とは

「脳細胞を活性化するもの」です。現在の統計業務を始め、国際窓口、行政相談、人権問題、年金問題など様々な分野に携わってきました。その都度、新たな刺激を受けて仕事をしています。

仕事の極意

「悲観的に準備し、楽観的に行動する」です。国際会議のため一人で渡航することになった際、根が楽観的なので、若い頃なら全てが「何とかなるだろう」だったと思いますが、出来る限りの準備を国内で行い、不測の事態にも対応でき、無事職務を全うできました。

求める人物像

職務を遂行する気力と知力を持っているのはもちろんのこと、公的部門においても海外との連携などが必要になってきていますので、語学力と度胸も兼ね備えた人であればベストですね。



いわき市財政部長 百武 和宏

あなたにとって仕事とは

東日本大震災により、地震や津波による被害に加え、原発事故の風評被害が重なった福島県いわき市で、現在、市民生活の再建はもとより、経済・産業の再生をはじめとした本格的な復旧・復興に携わっています。私にとっては、今までの経験やあらゆる知識を投入し、目的を持って前向きに取り組めることが仕事であると考えています。

仕事の極意

震災からの復旧・復興には多額の経費がかかります。財政部長として、財源の確保とともに、限られた財源の最適投資を追求し、将来にわたり持続可能な行財政運営を目指すことを念頭において仕事をしています。

志願者へメッセージ

国、都道府県、市町村が互いの役割を担いつつ、住民との最前線である「地方の現場」が動きやすいような体制や仕組みなどを考えていくことができるのは、この総務省ではないでしょうか。



消防庁予防課 目貫 誠

あなたにとって仕事とは

社会正義の実現です。数年前、公立病院の閉鎖や休診が社会問題になりました。公立病院がなくなると地域が崩壊します。当時は担当係長として国の指針や地方交付税増額による支援策を実施し、地域医療の崩壊に一定の歯止めをかけることができました。

やりがいを感じた瞬間とは

命を救えた時です。東日本大震災では消防庁の指揮の下3万人を超える消防職員が派遣され、約5,000人を救助しました。私は発災直後から情報収集や現地本部への派遣等そのオペレーションに関わり命を救う役割を担うことができました。

求める人物像

日本を取り巻く閉塞感を打破できる若きリーダーを求めます。一緒に総務省で震災復興や日本全体を元気にしましょう。



行政評価局政策評価官室 樋渡 克久

あなたにとって仕事とは

「生き甲斐」です。与えられた仕事を悩みながらも一つ一つやり遂げ、その達成感を味わうことは、私にとっての生き甲斐であり、そのことが楽しく有意義な毎日につながるものと考えています。

求める人物像

上司、部下を問わず意見を交わし合い、物事を作り上げていくという仕事の進め方をしていることから、「人の話を良く聞き、自分の考えをきちんと整理し、正しく伝えることができる」、「待ちの姿勢ではなく、自ら考え行動できる」ことが必要だと考えています。

志願者へのメッセージ

公務員の仕事は、決して派手ではありませんが、国民生活を支える重要な業務だと考えています。それぞれ職場には個性がありますので、是非、私たちと話をする中で、その雰囲気を感じてほしいと思います。



情報流通行政局郵政行政部企画課 川久保 潤

あなたにとって仕事とは

早いもので総務省(旧郵政省)に入省して20年が過ぎました。振り返って見ると、国際部での国際会議に関する業務や、官房総務課での法令審査業務、その他、他省庁への出向等、実に様々な経験をさせてもらってきたと感じます。「仕事」を通じて様々な経験や勉強をさせてもらい、その結果として現在の自分が形成されているような気がします。

求める人物像

総務省の業務においては、省外や省内の他部局、他課室の方々から様々な形で協力等を得ながら業務を進めていくことが多いので、是非「協調性」のある方に来ていただきたいと思っています。

志望者へのメッセージ

総務省の所掌範囲は、非常に幅広く、日々の業務を通じて様々な経験や挑戦をすることができるのではないかと思います。

羽室 雅文

国民の皆様と 行政との架け橋

ご存知ですか？

皆様は、各都道府県に所在する管区行政評価局や行政評価事務所をご存知ですか。国の政策や行政運営の改善を求める行政評価局調査を実施したり、国民の皆様からの様々な苦情や要望等の行政相談の窓口となっています。その結果、具体的な改善方策を提案して関係行政機関に見直しを求め、国民にとってより良い行政を実現していく職場です。

また、皆様が総務省に採用されると、将来は、行政評価局調査や行政相談のほか、政策評価の推進、独立行政法人の評価、行政機関の機構・定員の管理、電子政府の推進、情報公開の推進、個人情報の保護、行政運営の公平確保や透明性の向上、統計行政の総合的な調整等、多様な選択肢も待っています。

細かなところまで配慮された行政を実現！

行政相談を担当すれば、国民の皆様と直接向き合ってその声を聴き、国民に寄り添い、細かなところまで配慮された行政の実現を図っていくことができます。

相談窓口は、管区行政評価局や行政評価事務所のほか、商業施設、市町村役場、集会場等身近な場所にも開設されており、様々な苦情や要望等を受け付けています。例えば、大学入試センター試験で科目選択を誤った大学受験失格者に検定料を返還する取扱いとなったことや、地目変更登記申請書をインターネットからも入手することが可能となったことが挙げられます。また、東日本大震災や台風被害の発生の中でも、避難先で相談窓口を開設し、被災者の方々を支援しています。

ちなみに、年金保険料の納付記録訂正に関し公正な判断を示すことを任務とする「年金記録確認第三者委員会」も行政相談機能を活用したものです。

国民目線から行政の仕組や運営を改善！

行政評価局調査を担当すれば、国の政策や行政運営について、関係行政機関に対し、行政側の論理ではなく国民目線に立った様々な改善方策を提示し、真に国民の立場に立った行政の仕組や運営の実現を図っていくことができます。管区行政評価局や行政評価事務所では、その最前線で、行政運営の実態を調査し、問題事例を把握し、その原因を追究して改善に向けた方向性を検討する役割を担っています。さらに、調査テーマは4か月ごとに変わるので、常に新鮮な刺激もあります。

ここまでご覧の皆様、我々とともに、声なき声を聴き、その声をより良い行政の実現につなげるため、国民の皆様と行政との架け橋となって働いてみませんか。

PROFILE

昭和53年 4月 行政管理庁採用
中国管区行政監察局
昭和56年 1月 行政管理庁
行政監察局調整課
平成15年10月 総務省行政評価局
総括評価監視調査官
平成17年 7月 総務省
行政評価局調査官
平成20年 2月 総務省
行政評価局総務課
政策評価審議室長
平成22年 4月 総務省行政評価局
行政相談課行政相談
業務室長
平成23年 4月 現職

とある一週間

月曜日 定例の幹部会
年金記録確認第三者委員会付議
案件の説明を受け、必要な指示

火曜日 行政相談委員団体の会長と打合せ
年金記録確認第三者委員会に出席

水曜日 台風被災地で開設された特別総合
相談所に出席。被災地の首長と意
見交換するとともに、被災現場を視察

木曜日 年金記録確認第三者委員会に出席
行政相談業務の説明を受け、必要な
指示

金曜日 年金記録確認第三者委員会付議
案件の説明を受け、必要な指示
来年度の体制等について打合せ

土・日曜日 自宅近隣を散策（週末は、健康増進
を兼ねて、自宅近隣のほか、世界遺
産や古都等を散策）



大阪散策(住吉大社)

総務省てげいっちゃんが。 一緒に働かんね？

宮崎行政評価事務所
評価監視調査官

小林 宏一郎

国民目線で。

東京から宮崎に赴任して早2年。本省で採用されてからの2年間は、霞が関の行政機関を相手に、「電子政府の推進」や「行政評価局調査」等に携わり、多忙ながらも充実した日々を過ごしました。その後、宮崎に赴任し、これまで国民の申立てに直接応える「年金記録確認業務」に従事しています。

『なんだか総務省の仕事は色々あるな〜』そう思われる方も多いと思います。しかし、これらの業務は「より良い行政をつくる仕事」という点で共通しています。では、誰から見て「より良い行政」でしょうか。それは、もちろん国民です。私は、日々の業務の中で常に国民目線で業務に当たるよう努めています。

こんな仕事をしています。

現在従事している年金記録確認業務は、テレビ等で話題になった「国の記録と自分の記憶が相違している。」という申立てについて、調査を行い、委員会に付議し結論を得るというもので、特に国民目線が必要な仕事です。

申立人の中には、少なからず行政への不満を抱えている方が多いので、最初に連絡する際の対応に一番気を遣っています。また、調査の中で申立人や関係者からお話を聞く機会も多いのですが、突然の連絡で警戒される事もあります（オレオレ詐欺だと思われることも! ?）。スムーズに供述を得るために、調査の目的を分かりやすく説明する、ゆっくりと話す、調査票の字を大きくするなど気を付けています。

申立人とやり取りを重ね、信頼関係をつくることで、申立てが認められなくても「ここまで調査してもらったら納得した。ありがとう。」とお礼の言葉を貰うこともあります。本省では、自分が携わった仕事が新聞で報道された際などに、その規模を実感し、達成感を感じましたが、宮崎弁のお礼の言葉はそれに匹敵するものです。

勤務地は違ってても。

行政評価局調査ではテーマ毎に関係法令や現状についての勉強が必要だったり、年金記録確認業務でも年金に関する知識を習得するために日々勉強が必要です。しかし、安心してください。上司や同僚に相談や議論がしやすい風通しの良い職場です。

また、私と同じく本省で採用された同期も、現在、福島、大分等全国各地で勤務していますが、逆に、地方支分部局で採用された同期が本省で勤務しています。この意味でも風通しが良い職場です。勤務地は違ってそれぞれのフィールドでより良い行政をつくるために働いています。

総務省の仕事に興味を持った方、一緒により良い行政をつくりましょう！

PROFILE

平成20年4月 総務省採用
行政管理局
行政情報システム企画課

平成21年4月 総務省行政評価局
総務課地方業務室

平成22年4月 現職

とある一週間

月曜日 調査が終わった事案を委員会に付議。調査した内容を分かりやすく説明できるよう気を付けます。

火曜日 上司から新たな事案を配布される。申立内容の整理と調査すべき事項をまとめる。

水曜日 申立人へ連絡。今後の流れを説明し、申立内容の詳細を確認。

木曜日 当時の事務取扱が分からない。先例で同じような事案が無いか調べるとともに関係機関に照会。

金曜日 調査の方向性について、上司に相談。さらに調査すべき事情について助言を受ける。追加調査が必要だ。

土・日曜日 好きな野球チームが宮崎でキャンプをしている。これは観に行かない!



唯一の移動手段、クロスバイク。お気に入りです。

地上デジタル放送の普及により 安心・安全、豊かな生活に貢献

関東総合通信局放送部放送課長

茅野 民夫



住民に地デジを確実にお届けする業務

地方総合通信局の放送課では、地元のテレビ局やラジオ局に関する許認可業務に加え、ここ数年は地上デジタル放送の普及に重点的に取り組んできました。テレビは生活に欠かせない存在であり、特に災害時には大変重要な役割を果たします。アナログ放送が終了したらテレビが見えなくなったという世帯が生じないよう、受信エリアの拡大や住民の方々への周知を行ってきました。現在はアナログ放送は終了しましたが、電波が届きにくい地域への対応に引き続き取り組んでいる状況です。放送事業者の方々と一緒に現地に赴いて具体的な受信方法や補助金のご説明をするなど、丁寧な対応に努めています。

地域事情に応じた創意工夫

住民の方々には中継局やケーブルテレビなどの整備状況を踏まえた受信方法を提示するよう心がけています。そのために、地方局が中心となり地元の放送事業者、自治体等による検討体制を構築し、個々の地域ごとに最も適した受信方法を検討するとともに、それぞれの立場に応じて役割分担を行い効果的に住民対応を進めています。地デジに限らず、地方局では地域の実情を踏まえて創意工夫により業務を進めることが大切となります。特に関係者との調整は簡単ではなくなかなか思い通りには行かないのですが、本省とは一味違う達成感、やりがいを感じることができる部分かと思えます。

安心・安全で豊かな生活にも貢献

情報通信行政では地デジをはじめ時代の最先端を行く分野を扱っていますが、一方で生活に密着した分野でもあります。地方局で住民の方々と接しているとそれが本当に実感できます。難視聴地区内のお年寄りの方から「テレビだけが楽しみ」という話を聞くと、これは真剣にやらなければならぬぞという気持ちになります。住民の方々に安心・安全で、そして豊かな生活を送っていただくための仕事、是非そうした観点からも、情報通信行政、そして総務省に魅力を感じていただければと思います。

PROFILE

平成 7 年4月 郵政省採用
平成13年1月 総務省情報通信政策局
情報通信政策課
コンテンツ流通促進室
平成14年8月 情報通信政策局
情報通信政策課
コンテンツ流通促進室
コンテンツ企画係長
平成16年7月 情報通信政策局
総務課総括係長
平成19年7月 情報通信局
地上放送課計画係長
平成21年7月 現職

とある一週間

- 月曜日** 週初めの定例会議。誰がいつまでに何をしなければならないのかを確認しておくことが管理者としてとても大切。
- 火曜日** 埼玉県内の難視聴地区で住民説明会。付近の電波の状況を説明し、補助金を活用して裏山にアンテナを設置することで合意。
- 水曜日** 出張の翌日はメールの量が膨大。まずは本省から重要な指示がなされていないかチェック。見逃すとんでもないことに。
- 木曜日** デジタル中継局の免許など許認可案件決裁。法令に基づき厳正に審査。午後は東京スカイツリーの状況について放送事業者から説明あり。
- 金曜日** 甲府市で山梨県の放送事業者と難視聴対策会議。地区ごとに最も適した地デジの受信方法について議論。昼食は特急あずさで駅弁。
- 土・日曜日** 子供たちはサッカーが忙しいらしくなかなか遊んでくれません。そこで録画したテレビ番組をまとめて視聴。やっぱりテレビはいい。



休日の筆者(高尾山にて)

弘津 慶子

「総合通信局」で働きませんか

「電波」とはどういうもの？！

総合通信局の仕事の一つに無線局の許認可等の「電波」の監理監督があります。電波を使っているものといえば、携帯電話、テレビ・ラジオ、カーナビなど私たちの生活に身近で欠かせないものが数多くあります。普段はあまり意識されない電波ですが、現代社会では絶えず飛び交っており、重要な役割を果たしています。

文系の私にとって入局するまで電波に関する知識はほとんどありませんでしたが、わからないことを教えていただける上司もいますし、各種研修もありますので入局後に必要な知識を身につけることができます。採用には文系・理系を問われないため、電波になじみのない方でも気軽に総務省又は総合通信局の門を叩いてみてください。

テレビやラジオの受信相談

私は放送課でテレビやラジオの受信相談業務を担当しており、テレビが急に映らなくなった、ラジオに雑音が入って聞きづらいなど、国民からの様々な相談に対応しています。テレビはアンテナを屋根に上げて受信する方法、ケーブルテレビに加入する方法、共同受信施設で受信する方法がありますが、相談者の地域では、どの送信場所からの受信が適しているか、どこのケーブルテレビ会社がサービスを提供しているかなど、管轄する地域について詳しく知らなければなりません。

職場環境について(特に女性のみなさまへ)

一般職をめざしている女性のみなさまの中には、入局後に仕事と家庭の両立ができるか不安を感じている方も多いと思います。私も入局するまではどのような職場環境か不安でしたが、育児休暇や育児のための短時間勤務制度等を活用しながら仕事を続けている女性の職員もたくさんいるため、結婚や出産後も仕事を続けられる環境だと思います。育児以外にも個人の事情に考慮した様々な制度が整っておりますので、安心して働ける職場環境だと思います。また、年次休暇を取得し、旅行に出かけたり趣味に時間を費やしたりして心身ともにリフレッシュしながら仕事と生活の調和を図っている職員もたくさんいます。

採用されてから長く勤めることになる職場なので働きやすい環境かどうかということも重要です。どこの職場で働きたいか選ぶときには、ぜひ、職場環境も見えて選んでください。

PROFILE

平成18年4月 総務省採用
東海総合通信局
情報通信部
電気通信事業課

平成20年8月 総合通信基盤局
電波部 移動通信課

平成21年7月 東海総合通信局
放送部 放送課

平成24年4月 現職

とある一週間

月曜日 テレビ受信障害の相談を受ける。自治体あて礼状を送付するため起案する。

火曜日 自治体あて礼状を郵送するための準備をする。

水曜日 テレビ受信障害の相談を受ける。退庁後は数年通っている華道教室へ。

木曜日 ホームページの修正をするため案を作成し、担当者へ更新依頼をする。

金曜日 人事異動があるため、異動先の担当者から引き継ぎの説明を受ける。

土・日曜日 旦那とマイホーム購入の勉強のため住宅展示場に出かける。



職場の仲間と箱根旅行

活躍の場は 国にも地方にもあり!

彦根市企画振興部長

小川 徳久



総務省から「彦根市」に飛び出す

地方制度を所管する総務省の職員は、霞ヶ関で汗をかいているだけではありません。実際に市町村に飛び出し、見て、聞いて、地方で知恵を養い、住民と一緒に地域を盛り上げていく、地域のために汗をかく機会もあるのです。私は現在、国宝・彦根城、石田三成の居城・佐和山城跡を有し、ゆるキャラ NO.1 の「ひこにゃん」の住む滋賀県彦根市の企画振興部長として、市職員のみなさんと一緒に彦根市のために働いています。地方勤務は秋田県庁に次いで2回目です。

「彦根市」の一職員として

彦根市では、主に市政の総合的な企画・調整を行うとともに、市の重点施策である定住自立圏の担当として、地域住民のため、圏域全体の魅力を高めるため、周辺4町との協議や各種施策のコーディネート役なども担当しています。

このうち、市の統括的な部である企画振興部では、市長の掲げる方針を具体的な事務に落とし、他部局と調整を行いながら、時には条例制定も含めてその実現を目指します。市や市民のみなさんにとってよいものとなるよう部内で協議を重ね、考え抜いた上で成案を得たとき、それは大きな充実感や達成感となって返ってきます。そしてまた、市職員の一員として受け入れられて働く喜びや意義を感じながら仕事をしています。

このように、多岐にわたる職務の中で、市長の意向を踏まえ、総務省での業務で培った市職員とは異なる視点も持ちながら、いずれ「国民のため」に働く総務省に戻って再び仕事を行うため、日々研鑽を積んでいるところです。

国と地方で働く「やりがい」

今の日本は人口減少、少子高齢化などの厳しい状況の中で多くの課題を抱えています。地方がその潜在能力を活かし、元気になることが日本を元気にすることにつながります。日本のために国で地方を考え、実際に地方の立場で仕事をした経験を再び国での仕事に活かす。この循環の中で仕事ができるということに、私は総務省で働く「やりがい」を感じています。また、地方の立場を踏まえて他省庁と渡り合う「国と地方の橋渡し」という総務省の役割も「やりがい」の一つです。

総務省職員の活躍の場は、国はもちろん、日本全国にも広がっています。こんな魅力が詰まった総務省にぜひ一度足を運んでみてください。各地でさまざまな経験を持つ職員がみなさんの「やりがい」を掘り起こしてくれると思いますよ。

PROFILE

平成11年4月 自治省採用
行政局公務員部給与課
平成12年10月 秋田県企画振興部
市町村課
平成14年10月 公営企業金融庫
管理調査部管理課
平成17年4月 総務省自治行政局
選挙部選挙課
選挙第二係長
平成19年4月 自治行政局選挙部
政治資金課政助成室
助成第一係長
平成20年4月 自治行政局選挙部
管理課選挙管理
第二係長
平成23年4月 現職

とある一週間

月曜日 今週の予定をチェックしつつ、部内各課の回読書の決裁。自らの部の協議はもちろん、所管上他部局の合議も多い。

火曜日 週に一度の部長会議。会議の仕切りは本職の担当。市長以下各部長で協議、報告などを行う。

水曜日 彦根市の魅力を紹介する「市勢要覧」の市長協議。市長の発想とのすり合わせ。

木曜日 定住自立圏の1市4町の企画担当で、今年度の取組報告と来年度事業の協議・調整。発足から3年を迎え、取組みの深化を感じる。

金曜日 1週間の締め括りは他部局の職員と意見交換。部局を超えた交流は夜に盛り上がります。どこでもメリハリが大切!

土・日曜日 琵琶湖岸ドライブ。琵琶湖の大きさに包み込まれます。



地域のイベントでの挨拶

宮城県総務部市町村課

中津留 裕之

復興の最前線!!

常に変化し続ける。

1年目は予算要求、2年目は税制改正要望にシンポジウム、3年目は地方財政に復興関係。総務省に入省し3年、既に3箇所目となりました。若いうちから色々な業務を経験させてもらえる、それが総務省です。

現在私は宮城県庁で働いています。担当業務はもちろん、法律などの制度、そして自身も日々変化しています。東日本大震災の直後に宮城県へ来てから、まさに激動の1年でした。地方自治行政に携わる総務省職員として、そして一公務員として、非常に貴重な経験をさせていただいています。現在宮城県で復興関係の業務にも携わっていますが、復興へ向け日々変化しています。その中でまさに最前線である地方自治体で働いていることに、自身非常に大きな影響を受けています。

主役は市町村。

総務省では、地方自治体出身の方が多くいますが、現在私がいる市町村課にも、県内の市町村出身の方が沢山います。人生の先輩、公務員の先輩として日々色々と教えていただいています。

国で制度や政策を作ったりしていますが、それを実際に運用しているのは現場、まさに市町村です。震が関にいる時には聞こえてこない、実際の現場の声がここでは聞こえてきます。県は市町村を、国はさらに都道府県を含め、どうサポートしていくか考えさせられています。震が関で他省庁と議論を交わす際にも、実際のプレイヤーは地方自治体であるということを念頭に置くようにしています。そしてその声を届け、より良い制度作りに反映させていくことが総務省には求められていると思います。そういう意味で総務省は、国の視点、地方の視点、それぞれを持ち合わせて働くという、他省庁にはない魅力あるところですよ。

「人」との出会いを大切に・・・

仕事は“組織”です。しかし、仕事をうまく進めるためには“人”が大事だと思っています。総務省には良い人が沢山います。先に述べたこととあわせて、総務省の“人”に魅力を感じて入省を決めました。同期や先輩も同様の理由で入省を決めた人が何人もいます。総務省にいる2年間で出会った人、宮城県で出会った人とは、きっとこれからも続いていき、これからお互い助け合う存在になると信じています。

『一期一会』これは私の座右の銘です。このような気持ちを忘れずにありたいです。今これを読んでいるあなたと会えることを楽しみに待っています！今の出会いを大切に・・・。

PROFILE

平成21年4月 総務省採用
大臣官房秘書課 併任
大臣官房会計課

平成22年4月 自治行政局
地域自立応援課
過疎対策室

平成23年4月 現職

とある一週間

月曜日 朝から復興庁との会議。その後、復興交付金事業計画の策定支援のため、市町村へ訪問。やる気MAX!

火曜日 地方債の同意等手続きの準備。市町村財政への影響も大きいことから慎重にチェック。

水曜日 週の真ん中ということで、残りを元気に過ごすために、夜はリフレッシュしに同僚達と軽く飲みへ。ワクワク!

木曜日 市町村からの問い合わせや、国からの調査ものを処理していく。頭がパンクしそうだけど楽しい。勉強勉強。

金曜日 庁内で復興関係会議。今後の方針などの確認。もちろん夜は復興のためにも飲み会へ!今回は総務省の先輩と。

土・日曜日 樹氷を見て、スノボに行き、夜は温泉に入ってほっこり。来週に向けて癒し完了!!



市町村出身の県勤務の方々と1泊での分散会にて
(筆者2列目右から3人目)

地方自治体

海外

関係機関

留学

手塚 聡

地方の「熱い想い」を胸に

初めての地で

現在、私は大分県庁職員として働いています。総務省では、地方自治分野に携わる職員は、若手のうちに地方自治体に勤務する機会が与えられています。地方自治を所管する総務省職員にとって、まさに「現場」とも言える地方自治体での勤務は、重要な仕事の一つです。

大分県は温泉の源泉数、湧出量ともに日本で、別府湾に面する別府温泉、県中央部に位置する湯布院温泉等全国的に知名度の高い温泉地が多いのが特徴です。

私は今回初めて大分県の地に足を踏み入れましたが、日々の生活、仕事、新鮮な食材、県内無数の温泉地等全てが新鮮で、新しい発見の毎日です。

市町村の「熱意」を肌で感じて

大分県庁では、市町村振興課という市町村の行政、財政及び税政に関することや、選挙に関する業務等を行う課に所属しています。

その中でも、私は財政の分野を担当しています。市町村の起債に関する相談や受付、国からの補助金に対する市町村への配分作業、市町村の第三セクター等の経営状況についての集計作業や運営についての相談、市町村の決算状況についての集計作業等、内容は多岐に渡ります。

業務を遂行していく上で、市町村職員との協議や、実際に現場に赴いて話を聞く機会が多々ありますが、地域を良くしていきたいという市町村の熱意を肌で感じる事ができ、とても貴重な経験となっています。

市町村によって地域の問題や財政事情は様々です。そういった問題に対して県としてしっかり状況を把握し、市町村のために何が出来るかということを常に考えなければなりません。自分が今まさにやっていることが、市町村の住民の生活に直結する業務であることを考えると、責任の重さを実感しますし、同時に自分の仕事にやりがいを感じています。

「地方を元気に」は合言葉

総務省職員は各地での経験を国の施策に生かすため、それぞれの場で日々奮闘しています。同僚と飲み会に行けば、自分の人事交流先の地方自慢、故郷自慢の話で盛り上がります。総務省は国の立場にいらながらも、常に「地方を元気にしたい」という熱い想いを持った方々の集まりです。

ぜひ一度、地方の「熱い想い」を聞きに総務省に訪れてみてください。地方の思い出を熱く語ってくれる職員が、あなたを迎えてくれるはずです！

PROFILE

平成21年10月 総務省採用
自治財政局財政課総務室

平成22年1月 自治行政局選挙部
政治資金課収支公開室

平成23年4月 自治税務局
固定資産税課

平成23年10月 現職

とある一週間

月曜日

市町村から提出された起債要望書と計画書を入念にチェック。内容を詳細に把握するため、担当職員と直接協議するアポを取り付ける。

火曜日

チェックした書類について、上司に内容を確認してもらい、指摘を受ける。もう一度入念に書類をチェック。

水曜日

先日アポを取った担当職員と起債計画について協議を行う。事業内容等について説明を受け、更に自治体の現状等電話では聞けないような話も聞くことができた。

木曜日

協議した内容を報告書にまとめ、上司に内容を確認してもらい、班員にも回覧。市町村の財政状況について班員と議論を交わすこともあれば。

金曜日

提出された起債要望書と計画書を取りまとめ、照会先に提出。業務終了後は職場の皆と飲み会へ。

土・日曜日

県庁バスケット部の練習後、皆で温泉へ。県内の温泉巡りが週末の楽しみの一つです。



職場皆さんと県内旅行にて(竹田市)(筆者右から1人目)

多彩なステージが 待っていますよ

在エディンバラ日本国総領事館
領事

遠藤 崇

ボーダーレスに働くのであれば…。

公の世界で、ボーダーレスに働きたいのであれば、総務省はお勧めです。総務省誕生前の自治省で採用されたこともあり、入省以来、私は一貫して「地方自治」に携わってきました。しかし、政治資金、地方財政、消防行政、国際金融市場、WTO等の国際協定、JETプログラム等の国際交流…、とこれまでに関わってきた分野は多岐に渡ります。それもそのはず、現在の日本では地方自治体が公共サービスのメインプレイヤーであり、その土台となる制度設計やバックアップをするのが、我々総務省の役目ですから、仕事の幅は必然的に広がっていきます。更には、県庁等地方自治体での勤務を皆、経験しますし、時には現在の私のように外国での勤務の機会もあるかもしれません。ボーダーレスな業務と勤務地。多種多彩なステージが用意されていることが、総務省の大きな特徴といえるでしょう。

ふと振り返れば…。

また、一人一人に任せられる業務の責任が大きいのも、総務省の特徴かと感じています。業務に向かっている間は無我夢中ですが、一定の目処が付いて振り返ってみると、「あれ？実は結構すごいことに触れていたのだな。」と感じたことも、入省当時より一度や二度ではありません。

「外交」と「地方自治」は、遠い世界か…？

私は現在、英国スコットランドの首都エディンバラで、政治・経済の情報収集、分析をし、東京の外務省へ報告する、あるいは、政府関係者間の会議を設定するなど、「外交」の仕事をしています。「外交」は、一見、「地方自治」とは無関係であるようにも見えますが、そうではありません。「外交」では、自分の国のことを語らなければなりません。日本をよく知るには、地方を知ることが欠かせません。県庁での勤務を含めたリアルな「地方自治」を語ることができるのは、現在の仕事でも大きなツールとなっています。また、「地方自治」への理解を深めることは、国家のガバナンスという大きなテーマを考えることにも繋がるので、外国における情報収集、分析の際にも大変役立っています。国内、国外を問わぬ幅広さを持つとともに、とても深い「地方自治」の世界にどっぷりと浸かってみませんか。

PROFILE

平成10年4月 自治省採用
行政局選挙部政党助成室
平成11年7月 鹿児島県総務部地方課
平成13年8月 総務省消防庁総務課
平成15年4月 自治財政局交付税課
平成16年11月 公営企業金融庫庫
経理部資金課
債券第三係長
平成20年4月 総務省自治行政局
国際室国際交流係長
平成22年9月 自治行政局地域政策課
国際室多文化共生推進
係長
平成23年3月 外務省在エディンバラ
日本国総領事館副領事
7月 現職

地方自治体

海外

関係機関

留学



とある一週間

月曜日 週末の要人の発言などを、現地新聞や各種メディアによってチェック。ここから1週間が始まる。

火曜日 選挙制度調査のための来訪者をアテンドし、政府や議会との会議に出席。このような会議のためのアポイント取りも重要な仕事。

水曜日 スコットランドの独立を巡って、大きな動きあり。アシスタントとともに情報収集し、外務本省への報告準備にとりかかる。

木曜日 出勤前、息子と娘を学校に送り届ける。現地校で元気に頑張る彼らの姿は大きな励み。昼は総領事と地元市長との会食に出席。

金曜日 日本の学校で外国語指導助手（ALT）になることを希望する学生の応募書類に目を通す。昼食は行きつけのサンドイッチ屋で。

土・日曜日 ジムへ行き、マージナルアーツやダンスで十二分に汗を流す。昼は家族とカフェでお茶。夜はTVでサッカープレミアリーグ観戦。



同僚と談話中

ここにも総務省 ーニューヨーク事務所より

在ニューヨーク日本国総領事館領事

谷内 正登

ニューヨークにて

私が、旧郵政省へ入省した頃に生まれた皆さんが、総務省を就職先として考えられていることに長い年月を感じながら、筆を執っています。

ニューヨーク事務所と書きましたが、もちろん、そのような組織は存在せず、在ニューヨーク日本国総領事館に2010年の夏から出向し、経済部長を務めています。

主な担当業務は、米国経済の情報収集・分析、日系企業支援であり、海外でイベント等を行う日本の地方自治体を当地の自治体国際化協会とも協力し支援することもあります。

また、ニューヨーク日本商工会議所のメンバーでもあり、当地にある日系企業トップの方々とお会いでき、色々な話を聞く機会や人脈形成の機会に恵まれております。その他、当館幹部の代行でセレモニー等へ出席することも重要な業務の一環です。

新しい環境への適応

総務省は、幅広い業務を所掌していますので、常に新たな分野との出会いがあります。

また、異動により、職場環境が変わり、地方への異動に伴い、生活環境も大きく変わることもあります。しかし、とてもやりがいのある職場だと思いますので、新しい職場環境・新しい生活環境へ適応し、自分の実力を発揮してください。

グローバル化

日本の人口が少子化のため減少傾向にあることから、日本が生き残っていくためには、これまで以上に、海外を意識する必要があるのではないのでしょうか。海外へ進出する日本の企業を支援するということは、政府に課せられた義務であると思っています。

このため、総務省では、ここ数年、日本の優れた技術を海外へ広め、企業の海外進出をサポートしようということで、オールジャパンとして、政官民が一体となって、地上デジタルテレビ放送・日本方式の海外への普及活動を行っています。南米のほとんどの国が日本方式を採用し、更にアジア・中米・アフリカへと営業（笑）を行っています。

総務省では、在外公館等での勤務や留学の機会もありますので、皆さんも、国内だけでなく、海外での生活も経験してみませんか。

PROFILE

昭和62年4月 郵政省採用
平成元年7月 大臣官房経理部監査課
平成2年3月 日墨研修生・学生等
交流計画(メキシコ留学)
平成9年7月 大臣官房国際部
国際協力課
東南アジア係長
平成12年5月 外務省在ミャンマー
日本国大使館二等書記官
平成15年7月 日本郵政公社
郵便事業本部
国際郵便事業部長付GL
平成18年11月 総務省総合通信基盤局
国際部国際協力課
課長補佐
平成22年7月 現職

とある一週間

月曜日

週末に届いたメールや公電を確認。ランチは同僚と近くのカフェへ。夕方、独立行政法人に関する打合せを主催。

火曜日

午前は、館内会議で米国経済についての発表、部長会議と続く。午後は、メンバーになっているニューヨーク日本商工会議所の理事会へ出席。

水曜日

当館とジェトロが主催するエネルギー関係セミナー。経済部が担当のため、会場へ早めに到着し、準備状況等をチェック。

木曜日

午前は、出張者のホテルや車両の手配を行う。午後は、邦人保護に関する打合せに出席。

金曜日

午前中、当地の邦人校の小学校の卒業式に出席、祝辞を述べる。感動的な卒業式であり、涙腺が緩む。

土・日曜日

子供を英語塾へ送迎。スーパーマーケットで、1週間分の食料品を買い込み、その後、日本食料品店でも、日本食料品を購入。



卒業式挨拶

イメージはいつでも 雨のち晴れ

財務省主計局司計課

岩崎 太郎

辞令は突然に・・・

縁あって総務省に採用された私ですが、現在はところ変わって財務省主計局で働いています。ズバリ出向者というわけですね。所属している司計課では、各省庁の予算が適正に執行されているかを、様々な観点から審査しています。一言で言ってしまうと簡単ですが、扱うのは他でもない国家予算。職員一人一人が持つ責任の大きさも業務のボリュームも、半端なものではありません。

当初は、予算業務をまともに経験したこともなく、会計知識に長けているわけでもない自分が財務省で働くななんて大丈夫か？という心配もありました。しかし、「これもまた何かの縁」と覚悟を決めて、現場の実戦トレーニングで仕事を覚えていきました。毎日数字とにらめっこしながら、悩んで学んで何とか現在に至っています。

「仕事論」みたいなものを語ってみました

せっかくだからいい仕事したいですね。そのために、私は日頃から「バランス感覚」が重要だと思っています。一方に偏ることなく、臨機応変に立場を変わって考えるという力です。

総務省では、各省庁が行う政策をチェックするという業務を経験し、現在の財務省でもまた、各省庁を相手にして予算の執行をチェックしています。間違っていることは間違っていると指摘しなくてはなりませんが、こちらの主張をただぶつけたままでは、その後につながりません。上から目線なんてもってのほか。当方の意見、相手省庁の意見、そして国民の意見。様々な考え方があることを理解し、これらを集約していくことで、より広い視点で物事を考えられるようになります。大人の余裕とでも言いましょうか。きっと仕事もスムーズに進むでしょう。

というわけで、いざ総務省へ

総務省の仕事は実にバラエティ豊かだなあと、一度外に出てみてなおさら感じています。「財務省へ出向」という自分の今の姿はまったく想像できませんでしたし、私の周りを見ても、経歴は面白いほどバラバラです。いい意味で既定路線というものがない。お恥ずかしい話、総務省内でも私の知らない仕事はまだたくさんあります。本人の気持ち次第で、いくらでも仕事の幅が広がっていく。そんな可能性が総務省には溢れているのではないのでしょうか。迷ったらいざ総務省へ。皆さんにも何かが見えてくるはずですよ。

PROFILE

平成18年4月 総務省採用
総務省北海道管区
行政評価局

平成19年4月 総務省行政管理局
企画調整課

平成21年4月 総務省行政評価局
評価監視官付

平成23年7月 現職



とある一週間

月曜日 担当省庁から報告を受けた調査の数字チェック。まだ週の始め。電卓を打つ指にも力がある。

火曜日 担当省庁や他係からの協議案件が絶え間なくやってくる。いつの間にか机の上が書類の山に。

水曜日 数字チェックや協議の日々は続く。まだまだ理解していなかった制度や規則があり、日々勉強。

木曜日 一日中、担当省庁の予算執行関係のヒアリング。相手からの要求に中々厳しくなれない自分がもどかしい。

金曜日 一週間がんばった自分へのご褒美。早めに仕事にメドをつけ、足早にお気に入りの居酒屋へ。

土・日曜日 家族と一緒にのんびりと過ごし、心と体を癒す。「仕事のことは考えない口にしなさい」が休日のモットー。



子どもと過ごす休日のひととき

地方自治体

海外

関係機関

留学

並木 剛

毎日が新鮮な
業務ばかりですよ



匿名データ??オーダーメイド集計??

現在、私は、独立行政法人統計センター統計作成支援課に所属しており、統計調査の「匿名データ」、「オーダーメイド集計」の提供業務を担当しております。

「匿名データ」、「オーダーメイド集計」という言葉を初めて耳にする方が大半だと思いますので簡単に説明させていただきますと、国勢調査などの国民の皆様には調査協力していただいた統計調査の結果は、公表している統計表以外にも調査結果を分析することにより有益な情報を得ることが可能です。また、統計調査の結果を実証分析のために利用したい研究者も多くいます。このようなニーズに応えるため、調査結果データを特定の個人又は団体等が識別できないよう加工した「匿名データ」と、調査結果の情報を用いて公表されていない新たな統計表を作成する「オーダーメイド集計」のサービスを提供しております。

このサービスの利用に係る利用希望者からの相談や依頼のありましたオーダーメイド集計の作成・提供、統計関連の学会等での広報が現在の私の担当業務です。

畑違いの業務に携わって得られた事

私の担当業務を読んで、この人は入省後ずっと統計業務に携わっているのではと思われる方もいるかもしれませんが、入省3年目には総合通信基盤局、昨年度までは内閣府に出向しており、統計とは全く畑違いの業務に従事していました。慣れない業務で四苦八苦した記憶がありましたが、頼れる上司や先輩の方々に恵まれ、色々サポートしていただいたことにより乗り切ることが出来ました。

また、畑違いの業務を経験させていただいたことにより、別な観点から物事を観察できるようになり、今後、様々な仕事を成し遂げるための大切なスキルを身につけることが出来たと思います。

貴重な経験と幅広い人脈を形成できます!!

総務省は、多岐にわたる業種の方々と接する機会も多く、色々な業務に携われる機会がたくさんあるところです。その反面、色々勉強しなければならないこともあります。毎日新しい仕事に携わることができて、“ポジティブシンキング”な方にはお薦めです。

少しでも興味を持っていた方は、是非一度総務省に官庁訪問してみてください。

皆様と総務省でお会いできることを楽しみにしております。

PROFILE

平成15年4月 総務省採用
統計研修所統括研究官付
平成16年4月 統計局統計調査部
国勢統計課研究分析係
平成17年8月 総合通信基盤局
電波部電波環境課
平成19年7月 統計局統計調査部
国勢統計課
労働力人口統計室
企画指導第二係
平成21年8月 内閣府官民競争入札等
監理委員会事務局
監理専門職
平成23年4月 現職

とある一週間

月曜日 今週の業務について、担当内で打ち合わせ。今週のメイン業務は、金曜日に開催される研究集会の準備。

火曜日 研究集会にて司会・進行していただく大学准教授の方と当日の進行について最終調整。

水曜日 研究集会にて配布する予稿集の最終確認。定時退庁後、職場のサークル活動(バレーボール)にて汗を流す。

木曜日 明日の研究集会の開催に向けて、会場設営などの最終準備。

金曜日 研究集会の開催日。研究者からの統計データ用いた研究報告と活発な議論が行われ、有意義な研究集会となり一安心。

土・日曜日 職場の同期とマラソン大会に参加。結果はさておき、心身ともリフレッシュ!!



サークルのメンバーと(筆者前列右端)

社会人学生やってます

人事院行政官国内研究員
(京都大学公共政策大学院)

林田 雄亮

大学院で学ぶこと

皆様こんにちは。私は総務省の職員ですが、現在は人事院行政官国内研究員の制度を利用して、京都大学公共政策大学院で社会人学生として学んでいます。このような制度は一般職の職員に対しても開かれているものです。

大学院に来る前は、携帯電話や光ファイバなどの規制を担当していましたが、行政官として政策に関する幅広い知見を身につける機会を得たいと考え、公共政策大学院への進学を希望しました。

私が学んでいる京都大学公共政策大学院は、主に公共部門で活躍する人材を育成するために設けられた職業人大学院で、授業には法律や経済学などの科目に加えて、様々な分野の公共政策に関する科目が用意されています。

職場で働いていた時は、自分の関心や勉強の対象は日々接する通信分野に集中していましたが、大学院では自分が深く学んだことのない様々な分野の政策についても学ぶことができ、充実した日々を送っています。

社会人学生として大学院で学ぶことは、実務で経験してきたことを、様々な理論や事例の学習を通して理論的・抽象的に捉え直し、一般化するプロセスという面もあり、ここで学んだことは実務における様々な場面での応用力に繋がると考えています。

学生生活

大学院では公務員を目指して勉強する若い学生をはじめ、地方議員や自治体の職員、留学生など様々なバックグラウンドを持つ学生が集まっており、少人数教育の中で共に学生生活を送ることで、日々新しい刺激を受けています。

また日本の古都である京都で生活し、休日に由緒ある神社仏閣などを訪問することは、日本の文化について学ぶ貴重な機会となっています。

メッセージ

総務省は非常に幅広い分野の政策を所管しており、国家公務員を目指すみなさん自身の興味・関心から、何かしら総務省の政策に繋がるものがあるはずですよ。ぜひ総務省で自分がやりたいことを見つけて頂ければ幸いです。皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

PROFILE

平成16年10月	総務省採用 情報通信政策局 総合政策課
平成18年7月	大臣官房秘書課
平成20年7月	総合通信基盤局 電気通信事業部 料金サービス課
平成22年4月	総合通信基盤局 電気通信事業部 料金サービス課 基幹通信係長心得
平成22年7月	総合通信基盤局 電気通信事業部 料金サービス課 企画係長心得
平成23年4月	現職

とある一週間

月曜日	統計の授業に参加。いつも通り大量のプリントが配られ、消化するのが大変ですが勉強になります。
火曜日	イギリス人の先生による英語の授業で、プレゼンテーションの技法を学ぶ。午後は情報化に関する講演に参加。
水曜日	危機管理の授業で、ゲストスピーカーとして来られた自治体の方のお話を聞く。その後自習室で勉強。
木曜日	午前は政策立案の授業。午後は来週の授業のグループ発表に備えて、担当メンバーで打ち合わせ。
金曜日	公共政策論の授業を受ける。午後は試験対策のため、学生有志で集まって勉強会を行う。
土・日曜日	蹴上駅からインクラインを歩いて、南禅寺を訪問。夜は公益事業の勉強会に参加。



学生同士の旅行模様

地方自治体

海外

関係機関

留学

Q 平成24年度の採用実績は？

A 平成23年度Ⅱ種試験合格者からの採用数は本省が51人、地方支分部局が11人となっています。また、女性職員の採用にも積極的であり、多くの職員は結婚、出産後も育児休業・部分休業等を利用しながら仕事との両立を図っています。

Q 採用はどのように決定するのですか？

A 採用担当者とあなたとの面談を積み重ねて、あなたの長所、やる気、可能性などを総合的に判断して決定します。面談による人物本位の選考を行いますので、積極的に訪問していただき、あなたの魅力をアピールしてください。

Q 採用時の配属・勤務地は？

A 本省採用者は本省内の各部局や東京都内の各機関に配属されます。地方局採用者は、採用された地方局に配属されます。過去3年間のⅡ種試験合格者の採用者状況は以下のとおりです。

	本省採用者	地方局採用者	
		管区行政評価局 行政評価事務所	総合通信局 総合通信事務所
22年度	76(29)	32(11)	12(5)
23年度	60(21)	6(2)	3(0)
24年度	51(14)	11(4)	0(0)

★人数は各年度の国家公務員採用Ⅱ種試験合格者からの採用者数 ★カッコ内は女性の内数

Q 最初に配属されると、ずっとその部署で勤務するのですか？

A 配属された部署によって異なりますが、おおむね、数年に一度、別の部署へ異動することとなります。本人の希望、適性に応じ、採用地以外の勤務地へ転勤する場合があります。

Q 採用後の研修は？

A 採用時に新任者研修を行うほか、業務に関連した研修や希望者を対象とした専門研修、昇進時の研修など様々な研修があります。

Q 採用後のキャリアアップについて教えてください。

A 一般職で本省勤務となる職員は、入省後、内部部局の課、室において、係員、係長、課長補佐等として、本人の希望や適性に応じて、主に特定分野の業務(例えば行政管理、地方自治、放送行政、情報通信行政、統計など)を中心に担当することになります。ただし、必ずしも特定分野の業務のみではなく、大臣官房やそれ以外の業務を担当する機会もあります。また、キャリア形成の過程で、地方機関の管理職として活躍する機会や、都道府県や市町村の幹部職員等として派遣されることもあります。この他、他府省等への出向、海外の在外公館勤務や留学の機会もあります。

Q 福利厚生等はどうなっていますか？

A 総務省に採用されると、総務省共済組合に加入することになり、医療給付等を受けられるほか、全国各地にある共済施設が利用できます。また、住宅資金の貸付制度もあります。

平成16年4月には、本省庁舎内に、食堂を含む新しい施設が増設され福利厚生が更に充実しました。



本省庁舎内にある「総務省共済組合診療所（歯科・内科）」。
急に歯が痛くなったり体調が悪くなったときでも安心です。



本省庁舎内には、ドラッグストアや、クリーニング店、コンビニエンスストア、各種飲食店などがあります。

本省庁舎内8階にある「総務省図書館」（国立国会図書館行政部門支部図書館）。多くの職員が、業務に必要な書籍をこちらで探したりします。特に法案の立法作業や法案改正作業を行う課室の方等が利用しています。



情報通信政策に関する総合的な調査・研究及び研修を行う「情報通信政策研究所」。情報通信政策研究所はIT戦略・情報通信政策に資する調査研究を行うとともに、放送・情報通信行政に従事する職員の研修機関として放送・情報通信分野に関する様々な研修を行い、人材の育成に取り組んでいます。



「統計研修所」は統計知識の普及と発達を目的とした専門研修機関。国及び地方公共団体等の職員を対象に多様な研修を実施しているほか、統計の総合的な研究も行われています。また、「日本統計年鑑」「世界の統計」などの総合統計書の編集・刊行も行っています。



総務省の組織

内部部局

大臣官房	秘書課 総務課 会計課	企画課 政策評価広報課	人事・恩給局	総務課 人事政策課 公務員高齢対策課 恩給企画課	恩給審査課 恩給業務課 参事官(5)
行政管理局	企画調整課 行政情報システム企画課 管理官(8)		行政評価局	総務課 行政相談課	政策評価官 評価監視官(9)
自治行政局	行政課 住民制度課 市町村体制整備課 地域政策課 地域自立応援課	公務員部 公務員課 福利課 選挙部 選挙課 管理課 政治資金課	自治財政局	財政課 調整課 交付税課 地方債課 公営企業課 財務調査課	
自治税務局	企画課 都道府県税課 市町村税課 固定資産税課		情報通信 国際戦略局	情報通信政策課 技術政策課 通信規格課 宇宙通信政策課	国際政策課 国際経済課 国際協力課 参事官(3)
情報流通 行政局	総務課 情報流通振興課 情報通信作品振興課 情報通信利用促進課 地域通信振興課 放送政策課 放送技術課 地上放送課	衛星・地域放送課 郵政行政部 企画課 郵便課 貯金保険課 信書便事業課	総合通信 基盤局	総務課 電気通信事業部 事業政策課 料金サービス課 データ通信課 電気通信技術システム課 高度通信網振興課 消費者行政課	電波部 電波政策課 基幹通信課 移動通信課 衛星移動通信課 電波環境課
統計局	総務課 統計情報システム課 統計調査部 調査企画課 国勢統計課	経済統計課 経済基本構造統計課 消費統計課	政策統括官 (統計基準担当)	統計企画管理官 統計審査官(3) 国際統計管理官	
政策統括官(情報通信担当)					

施設等機関、特別の機関、地方支分部局、外局

自治大学校		情報通信政策研究所		統計研修所		公害等調整委員会		総務課 審査官(9)	
管区行政評価局		北海道管区行政評価局 東北管区行政評価局 関東管区行政評価局 中部管区行政評価局 近畿管区行政評価局		中国四国管区行政評価局 四国行政評価支局 九州管区行政評価局 沖縄行政評価事務所		総合通信局		北海道総合通信局 東北総合通信局 関東総合通信局 信越総合通信局 北陸総合通信局 東海総合通信局 近畿総合通信局 中国総合通信局 四国総合通信局 九州総合通信局 沖縄総合通信事務所	
消防庁		総務課 消防・救急課 予防課		国民保護・防災部 防災課 参事官(3)		政治資金適正化委員会		電気通信 紛争処理委員会事務局	

★内部部局、施設等機関、地方支分部局及び外局を記載している。この他にも関係機関がある。

採用情報

採用予定部局 総務本省 ※消防庁を含む

採用窓口		連絡先
事務系	大臣官房 秘書課人事係	〒100-8926 千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎第2号館7階 03-5253-5111(代)(内線)21183, 21187, 21197 03-5253-5073・5074・5075(直)
技術系	【情報通信分野】 総合通信基盤局 電波部電波政策課	〒100-8926 千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎第2号館10階 03-5253-5873(直)
	【統計分野】 統計局 総務課人事係	〒162-8668 新宿区若松町19-1 総務省第2庁舎 03-5273-1118(直)

採用予定部局 管区行政評価局

採用窓口		連絡先
北海道管区行政評価局 総務課	〒060-0808 札幌市北区北八条西2丁目 札幌第1合同庁舎	011-709-1802(直)
東北管区行政評価局 総務課	〒980-0014 仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎	022-262-7831(直)
関東管区行政評価局 総務部総務課	〒330-9717 さいたま市中央区新都心1-1 さいたま新都心合同庁舎1号館	048-600-2302(直)
中部管区行政評価局 総務課	〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-5-1 名古屋合同庁舎第2号館	052-972-7411(直)
近畿管区行政評価局 総務部総務課	〒540-8533 大阪市中央区大手前4-1-67 大阪合同庁舎第2号館	06-6941-3431(直)
中国四国管区行政評価局 総務課	〒730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 広島合同庁舎第4号館	082-228-6172(直)
四国行政評価支局 総務課	〒760-0068 高松市松島町1-17-33 高松第2地方合同庁舎	087-831-3101(直)
九州管区行政評価局 総務課	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-11-1 福岡合同庁舎	092-431-7081(直)
沖縄行政評価事務所 総務課	〒900-0006 那覇市おもろまち2-1-1 那覇第2地方合同庁舎	098-866-0145(直)

採用予定部局 総合通信局

採用窓口		連絡先
北海道総合通信局 総務部総務課	〒060-8795 札幌市北区北八条西2丁目1-1 札幌第1合同庁舎	011-709-2311(代) (内線)4607
東北総合通信局 総務部総務課	〒980-8795 仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎	022-221-0606(直)
関東総合通信局 総務部総務課	〒102-8795 千代田区九段南1-2-1 九段第3合同庁舎22階	03-6238-1625(直)
信越総合通信局 総務部総務課	〒380-8795 長野市旭町1108 長野第1合同庁舎	026-234-9964(直)
北陸総合通信局 総務部総務課	〒920-8795 金沢市広坂2-2-60 金沢広坂合同庁舎	076-233-4413(直)
東海総合通信局 総務部総務課	〒461-8795 名古屋市中区白壁1-15-1 名古屋合同庁舎第3号館	052-971-9106(直)
近畿総合通信局 総務部総務課	〒540-8795 大阪市中央区大手前1-5-44 大阪合同庁舎第1号館	06-6942-8507(直)
中国総合通信局 総務部総務課	〒730-8795 広島市中区東白島町19-36	082-222-3306(直)
四国総合通信局 総務部総務課	〒790-8795 松山市宮田町8-5	089-936-5012(直)
九州総合通信局 総務部総務課	〒860-8795 熊本市春日2-10-1 熊本地方合同庁舎	096-356-3523(直)
沖縄総合通信事務所 総務課	〒900-8795 那覇市東町26-29	098-865-2301(直)

総務省

Ministry of Internal Affairs and Communications (MIC)



■所在地■

〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2
中央合同庁舎第2号館
tel 03(5253)5111(代)

■交通アクセス■

東京メトロ丸ノ内線・日比谷線・千代田線「霞ヶ関」駅下車 **A2** 出口徒歩1分
有楽町線「桜田門」駅下車 **4** 番出口徒歩3分
銀座線「虎ノ門」駅下車 **6** 番出口徒歩約8分

■ホームページ■

<http://www.soumu.go.jp/>